

メキシコ教育テレビ研修センター  
巡回指導調査団報告書

平成4年12月

国際協力事業団

社協三

J.R

92-041

メキシコ教育テレビ研修センター巡回指導調査団報告書

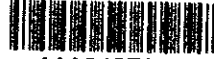
平成4年12月

615  
77  
SGS

柔団



JICA LIBRARY



1110407(2)



メキシコ教育テレビ研修センター  
巡回指導調査団報告書

平成4年12月

国際協力事業団

国際協力事業団

25707

## 序 文

メキシコ合衆国では、学校教育をはじめ幼児教育・成人教育に至るまでテレビ放送を活用することが重要視されているが、番組制作技術が未だ初歩的なために教育効果を十分に発揮できない状況にある。このため、昭和58年10月、メキシコ政府は教育番組制作を担当している文部省教育番組制作局に対するプロジェクト方式技術協力を我が国に要請し、その後昭和61年、更には昭和63年にそれぞれ同じく協力要請してきた。

これを受けて当事業団は、平成元年12月に事前調査団の派遣、更に平成3年1月に3名の長期調査員の現地派遣、続いて同年3月に実施協議調査団を現地に派遣し、プロジェクト方式技術協力を同年4月1日より開始した。

その後の調査団派遣については、現地でのスタジオ建設並びに供与機材据付け等のプロジェクト実施基盤が整うまで待つこととしたが、技術協力開始から1年5カ月経過した時点で、現地より上記プロジェクト実施基盤が整備されつつあるとの報告を受け、今回、これまでのプロジェクト実施状況の確認、今後の実施計画の策定及びプロジェクトの実施体制の整備状況を確認する目的で、平成4年9月20日から10月2日にかけて巡回指導調査団を現地に派遣した。

本報告書は、今般派遣されたプロジェクト方式技術協りに係わる事前調査団の調査・協議結果を取纏めたものである。

終わりに、本調査団の任にあたられた団長、団員各位および本調査団派遣に際しご協力頂いた外務省、郵政省、在メキシコ日本大使館並びに内外関係機関の方々に対し、深甚の謝意を表するとともに、併せて今後のご支援をお願いする次第である。

平成4年12月

国際協力事業団  
社会開発協力部  
部長 中村 信





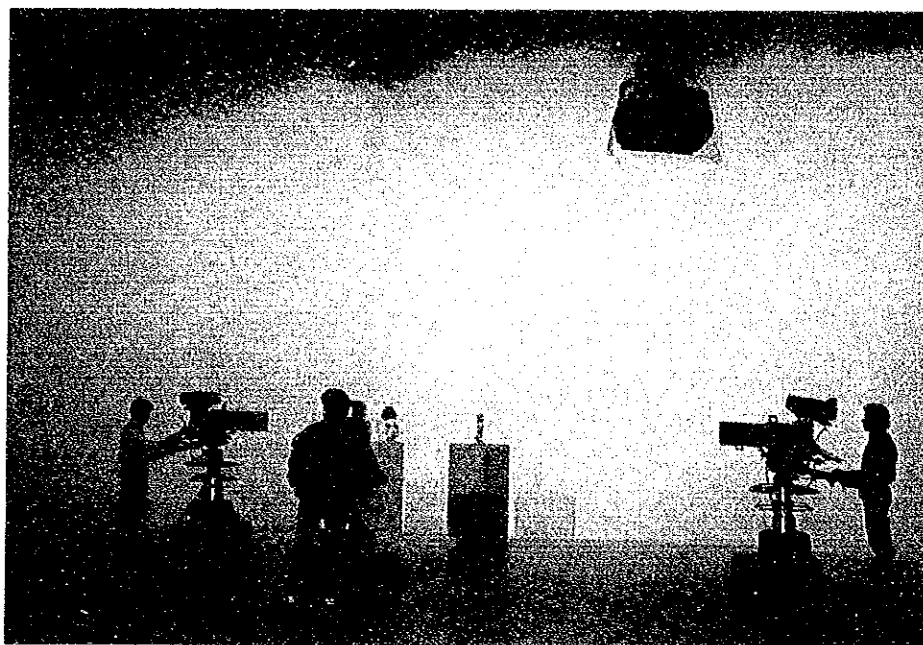


ミニッツ署名



スタジオ設備見学



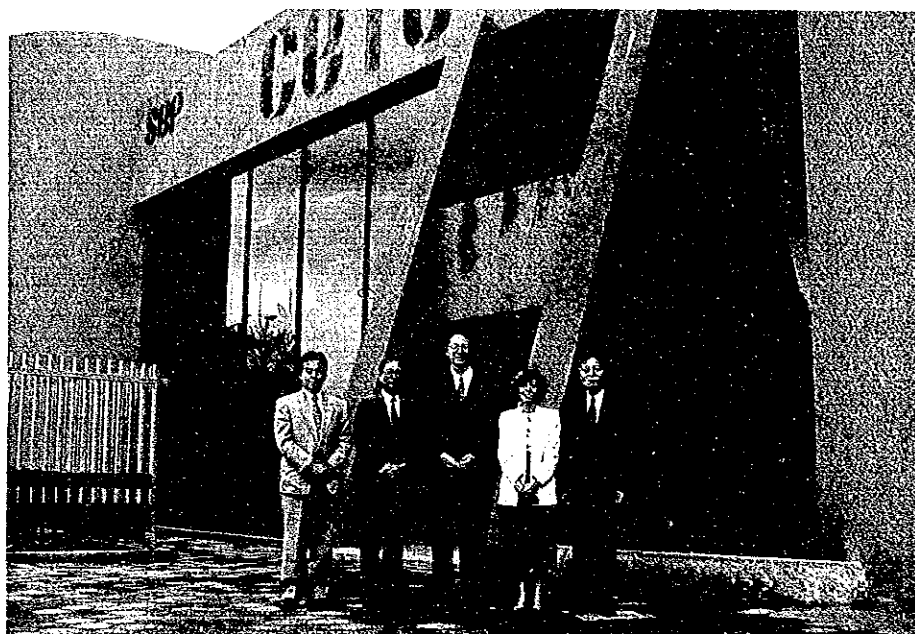


スタジオ見学



合同委員会





訓練センターの正面にて  
右より森近団員、センター所長、鈴木団長、横田団員、篠山団員



# 目 次

序 文  
写 真

1. 巡回指導調査団の派遣 .....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	2
1-3 調査日程 .....	3
1-4 主要面談者リスト .....	3
2. 調査・協議結果とミニッツ .....	5
2-1 調査・協議の内容 .....	5
2-2 ミニッツ .....	6
2-2-1 英文ミニッツ .....	7
2-2-2 西文ミニッツ .....	11
2-2-3 仮 訳 .....	15
3. プロジェクト進捗状況 .....	19
3-1 概況 .....	19
3-2 日本側投入実績 .....	19
3-3 技術協力実施状況 .....	19
4. プロジェクト実施体制 .....	21
4-1 実施機関の組織 .....	21
4-2 プロジェクトの予算措置 .....	21
4-3 建物・施設等 .....	21
4-4 機材の活用、保守・管理 .....	21
5. プロジェクト実施上の問題点と対応策 .....	33
5-1 CETE建物の完成 .....	33
5-2 4年度供与機材 .....	33
5-3 メキシコ側からの要望 .....	34

5 - 4	CETE運営のための要員及び予算の確保 .....	34
5 - 5	文部省による訓練コース受講者の資格認定 .....	34
5 - 6	開所式 .....	34
6.	各協力分野別プロジェクト実施計画 .....	37
6 - 1	専門家派遣 .....	37
6 - 2	供与機材 .....	37
6 - 3	研修員受入れ .....	37
6 - 4	各協力分野別実施計画 .....	38
7.	合同委員会の協議事項 .....	39
7 - 1	合同委員会議事録 .....	39
7 - 2	仮訳 .....	44
	附属資料 .....	49
	・ 4年度供与機材優先順位リスト .....	51
	・ 訓練コース実施計画案（4年度） .....	53
	・ カリキュラム・授業計画 .....	55
	・ 訓練コース参加予想人数調査 .....	77



## 1. 巡回指導調査の派遣

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

#### (1) プロジェクト開始に至る経緯

メキシコ国では、学校教育を始めとして幼児教育・成人教育においてもテレビ放送を活用した教育が重要視されている。しかしながら、未だ番組制作技術が初歩的なため教育効果を十分に発揮できない状況にある。このためメキシコ政府は教育番組を中心に行っている文部省教育番組制作部門(UTE)に対する技術協力を我が国に要請越した。なお、本件は1989年1月16日、教育省で開催された国家教育近代諮問委員会設置会議の席上、カルロス サリナス大統領によって提唱された「国家教育通信システム(EDUVISION)」計画の一環として位置付けられるものである。

これを受けて、1989年12月に事前調査団派遣、また1991年1月に長期調査を実施、続いて同年3月に実施協議調査団を派遣し、正式にプロジェクトを同年4月1日より開始することとなった。

#### (2) 今次調査実施に至る経緯

実施協議調査	91. 3. 11~3. 20
プロ技開始	91. 4. 1より5年間
計画打合せ調査	スタジオ建設及び機材据付け後に調査団を派遣するのが望ましいと判断し、本調査団を派遣しないこととした。
巡回指導調査	92. 9. 20~10. 2 スタジオ建設及び機材据付けが、ほぼ順調に実施されたとの長期派遣専門家からの報告を受けて本調査団の派遣を決定した。

#### (3) 今次調査の目的

- (イ) 昨年4月プロジェクト開始後現在に至るまでの1年半の進捗状況のレビュー
- (ロ) プロジェクトの今後の実施計画の策定
- (ハ) メキシコ側要請事項の確認と我が方対処方針の提示
- (ニ) 日本側要望事項の提示と先方対処方針の確認
- (ホ) 上記につき、ミニッツにて確認
- (ヘ) JOINT COMMITTEE (合同委員会) の開催

1 - 2 調査団の構成

JICA  
ADVISORY SURVEY TEAM ON THE PROJECT  
OF  
THE EDUCATIONAL TELEVISION TRAINING CENTER  
IN MEXICO

From 20th Sept., 1992  
To 30th Sept., 1992

MEMBERS LIST

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 鈴木 雅一<br>Mr. SUZUKI Masakazu     | 総括(TEAM LEADER)<br>郵政省官房国際部国際協力課 地域協力係長<br>Assistant Director,<br>International Cooperation Division<br>International Affairs Department<br>Ministry of Posts and Telecommunications         |
| 横田 政美<br>Mr. YOKOTA Masami       | 番組制作(PROGRAM PRODUCTION)<br>日本放送協会番組制作局学校放送番組プロダクション<br>チーフプロデューサー<br>Senior Producer,<br>School Education Division<br>Program Production Department<br>NHK (Japan Broadcasting Corporation) |
| 森近 治彦<br>Mr. MORICHIKA Haruhiko  | 放送技術(BROADCASTING ENGINEERING)<br>日本放送協会技術局施設業務部 部員<br>Staff, Facilities Administration Division<br>Engineering Administration Department<br>NHK (Japan Broadcasting Corporation)            |
| 篠山 和良<br>Mr. SHINOYAMA Kazuyoshi | 協力企画(COOPERATION PLANNING)<br>国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第二課<br>職員<br>Staff, Second Technical Cooperation Division,<br>Social Development Cooperation Department, JICA                              |

### 1-3 調査日程

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	9月20日	日	成田———メキシコ	出発
2	21日	月	メキシコ	大使館、JICA表敬 文部省官房長 教育番組制作局長表敬
3	22日	火	”	研修センター視察、専門家と打合せ
4	23日	水	”	先方と協議
5	24日	木	”	先方と協議
6	25日	金	”	ミニッツ作成、JOINT COMMITTEE
7	26日	土	”	団内打合せ、資料整備
8	27日	日	”	団内打合せ、資料整備
9	28日	月	”	ミニッツ署名、大使館、JICA報告
10	29日	火	”	報告書作成
11	30日	水	メキシコ———ロス	移動
12	10月 1日	木	ロス———	移動
13	2日	金	———成田	帰国

### 1-4 主要面談者リスト

#### (1) 日本側

渡 二等書記官  
 望月 JICA事務所長  
 橋本 同 所員  
 Ms. Midori Hashimoto 通訳  
 宮崎 リーダー  
 望月 調整員  
 大井 専門家  
 横井 専門家  
 船山 専門家

#### (2) メキシコ側

ESTEBAN MOCTEZUMA BARRAGAN 文部省官房長  
 PEDRO SABAU GARCIA UTE局長  
 GUADALUPE VALDES BLASQUEZ CETE所長  
 LUCIANO SAAVEDRA LECONA CETE副所長



## 2. 調査・協議結果とミニッツ

### 2-1 調査・協議の内容

メキシコにおける教育番組制作技術の向上を目的とした5カ年のプロジェクト方式技術協力は、この程第2年度を迎え、巡回指導調査を実施した。調査団は、1992年9月20日から10月30日まで11日間メキシコ合衆国を訪問し、メキシコ文部省教育番組制作局及び研修センターにおいて、プロジェクト開始から現在までの進捗状況を確認するとともに目的を今後どのように達成するか、そのためには日本・メキシコ双方が何をなすべきか等をメキシコ側関係者と協議することであった。

プロジェクトは、研修センター施設完成の遅れにより当初計画(92年4月)より約半年間開講が遅れたものの10月19日より訓練コースが開始される予定であり、これからその活動が本格化する段階にある。

調査・協議は、具体的には、主に以下の事項について行われたが、協議等の過程においてメキシコ側の本プロジェクトに対する極めて大きな意欲と期待が感じられた。

また、一連の調査・協議を通じて、日本・メキシコ双方がプロジェクトがほぼ順調に進捗していることを確認し、今後実施すべき事項等を確認した上でこれをミニッツにとりまとめ署名した。

- (1) 昨年4月以降のプロジェクトの進捗状況
  - (イ) 専門家の派遣
  - (ロ) 機材供与
  - (ハ) メキシコ側カウンターパート及び管理要員の配置
- (二) カウンターパート日本研修
  - (ホ) 訓練コース実施準備
  - (ヘ) 技術移転
- (2) プロジェクト実施体制
  - (イ) メキシコ側関係機関の組織
  - (ロ) 予算等
- (3) 実施すべき事項
  - (イ) メキシコ側が実施すべき事項
  - (ロ) 日本が実施すべき事項
- (4) 1993年末までのプロジェクト実施計画
  - (イ) 専門家の派遣
  - (ロ) 機材供与

(イ) カウンターパート日本研修

(ニ) 訓練コース実施計画

## 2-2 ミニッツ

- (1) ミニッツは、英文・西文両方署名した。英文を正本とし、文意の解釈上、双方のミニッツに誤解を生じるときは、英文に従うものとする旨西文ミニッツに記載した。
- (2) 署名者は、調査団長とUTE局長とさらにHonor Witnessとして文部省官房長が署名した。この方式はR/Dに準拠した。

THE MINUTES OF MEETING  
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY SURVEY TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED  
OF THE GOVERNMENT OF THE UNITED MEXICAN STATES  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE EDUCATIONAL TELEVISION TRAINING CENTER

The Japanese Advisory Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA), headed by Mr. Masakazu SUZUKI visited the United Mexican States from September 20th, 1992 to September 30th, 1992 for smooth and successful implementation of the Technical Cooperation concerning the Educational Television Training Center Project (hereinafter referred to as "the Project"). During its stay in the United Mexican States, the Team exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned in respect of the implementation of the Technical Cooperation Program for the Project.

As a result of the survey and discussions, both sides made the following Minutes of Meeting which was attached hereto.

Mexico City, September 28th, 1992

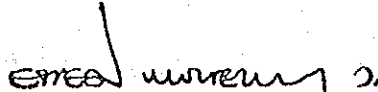
鈴木 雅一

Mr. MASAKAZU SUZUKI  
Leader  
Japanese Advisory Survey Team  
Japan International Cooperation  
Agency, JAPAN



Ing. PEDRO SABAU GARCIA  
Director General  
Unidad de Television Educativa,  
THE UNITED MEXICAN STATES

Honor Witness



Lic. ESTEBAN MOCTEZUMA BARRAGAN  
Official Mayor  
Ministry of Public Education  
THE UNITED MEXICAN STATES

THE ATTACHED DOCUMENT

I .PROGRESS OF THE PROJECT SINCE APRIL 1991

Both the Team and Mexican authorities concerned became aware from the meetings that the Project had been making good progress, however it was noted that there were several matters still to be fulfilled by both sides on the basis of the Record of Discussions (R/D), March 18th, 1991.

1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

The experts have been dispatched as scheduled and have played an active part in each field in the implementation of the Project.

2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

All of the equipment planned in the fiscal year 1991, arrived in Mexico by April, 1992 and was installed in the Center by the end of August, 1992.

The provision of equipment planned in the fiscal year 1992 is in progress.

3. ASSIGNMENT OF MEXICAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

Most of the Mexican personnel have been appointed and have been played an important role in the implementation of the Project, however some personnel have not been appointed.

4. TRAINING OF MEXICAN COUNTERPART PERSONNEL IN JAPAN

Training of Mexican counterpart personnel in Japan for the fiscal year 1991 was completed on schedule.

Training for the fiscal year 1992 is in progress as scheduled.

5. PREPARATION FOR THE IMPLEMENTATION OF THE TRAINING COURSES IN THE CENTER

(1) Preparation of the curricula and lesson plans

The curricula and lesson plans for the courses in the fiscal year 1992 have already been made.

(2) Preparation of teaching materials

Most of the teaching materials necessary for the implementation of the training courses in the fiscal year 1992 have already been made.



## 6. TECHNICAL TRANSFER

Technical transfer from Japanese experts to Mexican counterpart personnel is in good progress.

## II .MATTERS TO BE FULFILLED

1. The Team requested the Mexican authorities concerned to make prompt arrangement for the following in accordance with R/D :

- (1) To appoint the following personnel : 3 more counterpart personnel and two bilingual secretaries in Spanish and English.
- (2) To divide the Center budget from the UTE (Unidad de Television Educativa) budget.
- (3) To secure the Center budget large enough for the implementation of the Project such as personnel expenses of counterpart personnel and the costs incurred in the implementation of training courses.
- (4) To complete the construction of the studio as soon as possible.
- (5) To establish a system for equipment maintenance and one for storing spare parts.

2. The Mexican authorities concerned requested the Team to make prompt arrangement for the following :

To provide machinery and equipment for the fiscal year 1992 as soon as possible.

## III .FUTURE PROSPECT

Based on the recognition described in I and II, both sides confirmed the agreement :

1. To take the necessary measures for improving the matters pointed out in II above.
2. To make good efforts to follow the Tentative Schedule of Implementation of the Project as listed in ANNEX.



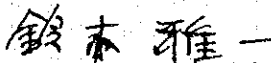
MINUTA DE LA REUNION  
ENTRE LA MISION JAPONESA DE ASESORAMIENTO  
Y LAS AUTORIDADES MEXICANAS  
SOBRE LA COOPERACION TECNICA JAPONESA PARA  
EL PROYECTO DEL CENTRO DE ENTRENAMIENTO DE TELEVISION EDUCATIVA

La Misión Japonesa de Asesoramiento (en lo sucesivo denominada La Misión), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en lo sucesivo denominada JICA) encabezada por el Sr. Masakazu SUZUKI visitó los Estados Unidos Mexicanos del 20 al 30 de Septiembre de 1992 para la fluida y exitosa implementación de la Cooperación Técnica concerniente al Proyecto del Centro de Entrenamiento de Televisión Educativa (en lo sucesivo denominado El Proyecto). Durante su estancia en los Estados Unidos Mexicanos La Misión intercambió puntos de vista y sostuvo una serie de deliberaciones con las autoridades concernientes, sobre la implementación del Programa de Cooperación Técnica para el Proyecto.

Como resultado del análisis y deliberaciones, ambas partes formularon la siguiente Minuta de Reunión la cual se adjunta.

De haber alguna discrepancia entre el documento redactado y firmado en inglés y el documento redactado y firmado en español prevalece la validez del redactado y firmado en inglés.

La firman en la Ciudad de México a los 28 días del mes de Septiembre de 1992.

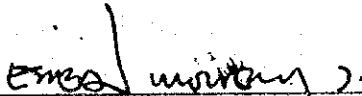


Sr. MASAKAZU SUZUKI  
Jefe de la Misión de  
Asesoramiento  
Agencia de Cooperación Internacional  
del Japón.  
JAPON.



Ing. PEDRO SABAU GARCIA  
Director General  
Unidad de Televisión Educativa  
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS

Testigo de Honor



Lic. ESTEBAN MOCTEZUMA BARRAGAN  
Oficial Mayor de la Secretaría  
de Educación Pública  
ESTADOS UNIDOS MEXICANOS

DOCUMENTO ADJUNTO

I. AVANCE DEL PROYECTO DESDE EL MES DE ABRIL DE 1991

La Misión y las autoridades Mexicanas concernientes se percataron desde la reunión que el Proyecto había logrado buen avance, sin embargo se indicó que existen todavía varios asuntos que deben ser cumplidos por ambas partes en base al Registro de Discusiones (R/D), de fecha 18 de Marzo de 1991.

1. ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES

Los expertos han sido enviados de acuerdo a lo programado y han desempeñado un papel activo en su campo respectivo en la implementación del Proyecto.

2. SUMINISTRO DE EQUIPOS

Todos los equipos planeados en el año fiscal Japón 1991, llegaron a México para el mes de Abril de 1992, y fueron instalados en el Centro de Entrenamiento de Televisión Educativa a fines de Agosto de 1992.

El suministro de equipos planeados para el año fiscal 1992 está en marcha.

3. ASIGNACION DE PERSONAL MEXICANO DE CONTRAPARTE Y ADMINISTRATIVO

La mayoría del personal Mexicano ha sido nombrado y ha jugado un papel importante en la implementación del Proyecto, sin embargo parte del personal todavía no ha sido asignado.

4. ENTRENAMIENTO DE PERSONAL MEXICANO DE CONTRAPARTES EN JAPON

El entrenamiento del personal Mexicano de contraparte en Japón para el año fiscal 1991 fue cumplido conforme al programa.

El entrenamiento para el año fiscal 1992 está en marcha conforme a lo programado.

5. PREPARACION PARA LA IMPLEMENTACION DE LOS CURSOS DE ENTRENAMIENTO EN EL CENTRO

- (1) Preparación del programa general de cursos y de los planes individuales por curso

El programa general de cursos y planes individuales por curso para el año fiscal 1992 ya han sido elaborados.

- (2) Preparación del material didáctico

La mayoría del material didáctico necesario para la implementación de los cursos de entrenamiento en el año fiscal 1992 ya ha sido elaborado.

## 6. TRANSFERENCIA DE TECNOLOGIA

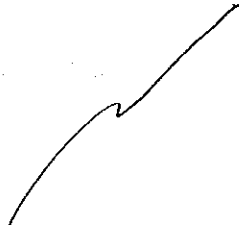
La transferencia tecnológica por parte de los expertos Japoneses hacia el personal Mexicano de contraparte, tiene buen avance.

## II. ASUNTOS QUE DEBEN SER CUMPLIDOS

1. La Misión solicitó a las autoridades Mexicanas concernientes efectuar el arreglo inmediato para lo siguiente, de acuerdo al Registro de Discusiones:
  - (1) Nombrar al siguiente personal: 3 personas más de contraparte y 2 secretarías bilingües en español e inglés.
  - (2) Separar el presupuesto del CETE del presupuesto de la Unidad de Televisión Educativa.
  - (3) Asegurar para el CETE el presupuesto suficiente para la implementación del Proyecto, tales como gastos del personal de contraparte y costos inherentes a la implementación de cursos de entrenamiento.
  - (4) Completar la construcción del estudio cuanto antes.
  - (5) Establecer el sistema para el mantenimiento de equipos y otro para el almacenaje de refacciones.
2. Las autoridades Mexicanas concernientes solicitaron a la Misión efectuar el arreglo inmediato para lo siguiente:
  - (1) Suministrar máquinas y equipos correspondientes al año fiscal 1992 tan pronto como sea posible. (b)

## III. PERSPECTIVAS

En base al reconocimiento de lo descrito en los apartados I y II, ambas partes confirmaron estar de acuerdo en:

1. Tomar las medidas necesarias para desarrollar los asuntos indicados en el punto II.
  2. Poner su mejor empeño para cumplir con el Programa Tentativo de la Implementación del Proyecto del ANEXO.
- 

ANNEX

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION (TSI)

TECHNICAL COOPERATION	THE FISCAL YEAR 1992						THE FISCAL YEAR 1993					
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1. DISPATCH OF EXPERTS	----->>>-----											
LONG-TERM	----->>>-----											
SHORT-TERM	----->>>-----											
2. PROVISION OF EQUIPMENT	----->>>-----											
3. ASSIGNMENT OF PERSONNEL	----->>>-----											
4. TRAINING OF C/P IN JAPAN	----->>>-----											
3W	----->>>-----											
3M	----->>>-----											
5. PREPARATION OF CURRICULA	----->>>-----											
TEACHING MATERIALS	----->>>-----											
6. TECHNICAL TRANSFER	----->>>-----											
TRAINING COURSES	----->>>-----											
1. TV CAMERA	----->>>-----											
2W	----->>>-----											
2. LIGHTING	----->>>-----											
2W	----->>>-----											
3. VIDEO AND VTR ENGINEERING	----->>>-----											
6W	----->>>-----											
4. AUDIO ENGINEERING	----->>>-----											
2W	----->>>-----											
5. POST-PRODUCTION AND EDITING	----->>>-----											
3W	----->>>-----											
6. MAINTENANCE OF EQUIPMENT	----->>>-----											
4W	----->>>-----											
7. PROGRAM PRODUCTION (BASIC)	----->>>-----											
3W	----->>>-----											
8. PROGRAM PRODUCTION (ADVANCED)	----->>>-----											
3W	----->>>-----											
9. SPECIAL COURSES	----->>>-----											
(1) TV STUDIO SCENERY	----->>>-----											
(2) AUDIO ENGINEERING	----->>>-----											
(3) MAINTENANCE OF VTR	----->>>-----											
6W	----->>>-----											
10. PRACTICAL TRAINING	----->>>-----											
UNDECIDED	----->>>-----											

NOTE: TSI is subject to change within the framework of R/D.

2-2-3 仮訳

メキシコ教育テレビ研修センターのための技術協力に係わる  
日本側巡回指導調査団とメキシコ合衆国政府関係機関との間の協議覚書

国際協力事業団（以下「JICA」という。）が組織し、鈴木雅一氏を団長とする日本側巡回指導調査団（以下「調査団」という。）は、教育テレビ研修センタープロジェクト（以下「プロジェクト」という。）に関わる技術協力が円滑で成功裏に実施されるために、1992年 9月20日から1992年 9月30日の日程でメキシコ合衆国を訪問した。

メキシコ合衆国訪問中、調査団はプロジェクトの技術協力実施計画についての意見交換及び一連の協議をメキシコ側関係機関と行った。

上記調査と協議との結果に基づき、双方は以下の事項につき協議覚書に署名した。

メキシコシティ、1992年 9月28日

鈴木 雅一  
巡回指導調査団団長  
国際協力事業団  
日 本

Ing. ペドロ サバウ ガルシア  
(文部省)  
教育番組制作局局長  
メキシコ合衆国

立会人

Lic. エステバン モクテスマ バラガン  
文部省官房長官  
メキシコ合衆国

## 付 属 文 書

### I. 1991年 4月以降のプロジェクトの進捗状況

調査団とメキシコ合衆国政府関係機関は、一連の協議を通じプロジェクトの進捗状況は良好であるという共通認識を得た。しかし、1991年 3月18日に署名したR/Dに基づき双方が履行しなければならない事項が依然残されていることを留意することとした。

#### 1. 日本人専門家の派遣

日本人専門家は予定通りに派遣されていて、それぞれの分野においてプロジェクトの履行に積極的な役割を果たしている。

#### 2. 機材供与

1991年度に計画されたすべての機材は1992年 4月までにメキシコに到着し、1992年 8月末日までに研修センターに据え付けられた。

1992年度の機材供与は、現在手続きが進められている。

#### 3. メキシコ側カウンターパート及び管理要員

メキシコ側の職員の大部分は配属されて、プロジェクト実施に重要な役割を果たしているが、まだ配置されていない要員もいる。

#### 4. メキシコ側カウンターパートの日本研修

1991年度のメキシコ側カウンターパートの日本研修は予定通り終了した。

1992年度の研修は予定通り進められている。

#### 5. 研修センターの訓練コース実施の準備

##### (1) カリキュラムと授業計画の準備

1992年度のカリキュラムと授業計画の準備は既に完了している。

##### (2) 教材の準備

1992年度の訓練コースの履行に必要な教材の大部分は既に用意ができています。

#### 6. 技術移転

日本人専門家からメキシコ側カウンターパートへの技術移転は、着実に実施されている。



## II. 履行すべき事柄

1. 調査団はメキシコ政府関係者に、R/Dに照らして次のことを即座に手配するように要望した。
  - (1) 次の職員を配属すること。：カウンターパート残る3人、英語とスペイン語を話す秘書2人
  - (2) 訓練センターの予算をUTE（教育番組制作局）の予算と別枠にすること。
  - (3) カウンターパートの職員費用や訓練コースのようなプロジェクトを実施するのに十分な予算を確保すること。
  - (4) スタジオの建設をできるだけ早く完了させること。
  - (5) 機材の保守並びにスペアパーツ管理体制を確立すること。
2. メキシコ政府関係者は1992年度の機材の供与が遅れないように、即座に手配することを調査団に要望した。

## III. 将来の展望

上記IとIIの認識に基づき、次の合意事項を確認した。

1. 上記IIで指摘された事柄を押し進めるために必要な手段を取ること。
2. ANNEXに記載された実施計画に従うために努力すること。



### 3. プロジェクト進捗状況

#### 3-1 概況

研修センター施設(CETE)は、一部内装を除きほぼ完成しており、91年度分供与機材を利用した訓練コースは10月19日より実施される予定である。

CETEの建物完成の遅れ並びに供与機材の現地到着の遅れにより上記訓練コース開講時期は当初計画(92年4月)より半年遅れたものの、専門家とカウンターパートの技術移転は順調に実施されている。

#### 3-2 日本側投入実績

(1) 長期専門家は計5名、リーダーを含め4名は昨年10月から派遣中であり、1名は昨年4月から派遣していた専門家と交代のため、本年10月派遣した。

短期専門家は今年度、機材据付け専門家9名を含め計11名派遣した。

(2) 供与機材については、91年度供与分は92年8月据付け工事を完了し、所期の機能を発揮している。92年度供与予定分は、前後期に分けて供与することとし、前期分は93年5月以降12月までに納入完了する旨を伝えた。

(3) 研修員受入れは3名の内1名受入れた。本年11月にはセンター副所長を準高級研修生として受入れ予定である。

#### 3-3 技術協力実施状況

(1) 訓練コース実施準備状況：本年度実施予定分のカリキュラム・授業計画及び教材の準備はほぼ完了している。(附属資料参照のこと)

(2) 技術移転状況：スタジオ建設並びに供与機材の到着が遅れたものの、総じて順調にすすめられている。カウンターパートについては前述したとおり、正式任命が遅れたものの、実状カウンターパートとしてプロジェクトに従事してきたので特に問題はない。



## 4. プロジェクト実施体制

### 4-1 実施機関の組織

UTEおよびCETEの組織図を図4-1(1)(2)に示す。CETE組織図については、将来構想図4-1(3)将来構想に比較すると小規模であるが、研修センター発足時の体制としては、センターの機能発現に必要な最低限の人員は確保出来ている。

なお、CETEの公式承認による人員配置は図4-1(4)のとおり。

### 4-2 プロジェクトの予算措置

92年度は、UTEとCETEの予算が一緒になっており、CETE予算の提示はなかったが、CETEとして今年度支出した金額は図4-2(1)(2)の通りである。

CETEの93年度予算案（大蔵省に対する予算要求）を図4-2(1)(2)に示す。

なお、かねてよりの懸案であった、CETE予算のUTEからの独立については、今回の合同委員会において文部省官房長より、93年度分から確立するとの言質を得た。

### 4-3 建物・施設等

プロジェクトサイトについては、1990年6月からメキシコ側の負担・責任において、CAPFCE（文部省の建築局）が建設中で、一部の内装等を除いてほぼ完了している。しかし、現時点でまだ若干の残工事があり、おもにスタジオフロアの平坦化手直しや照明用ホリゾントの平滑化などが挙げられる。これは、カメラワーク技術や照明技術などを移転するのに重要な項目であり、より精度の高い施工をメキシコ側に要求している。これについて、メキシコ側建築担当者もその内容を理解のうえ、改良に向けて努力する旨の回答を得た。

当初の計画では、1991年10月に完成する予定であったが、建設材料購入の遅れ、作業員確保の停滞、施工後の手直し等によりCETEへの引き渡しが遅延している。この点について、CAPFCE担当者より、遅くとも本年11月末日までには引き渡しを完了したい旨の報告があった。

プロジェクトサイトの立面図および平面図を図4-3(1)(2)(3)に示す。

### 4-4 機材の活用、保守・管理

91年度は、おもにスタジオの映像・音声・照明設備など約3億5千万円の機材が供与された。それに伴い、機材据付け短期専門家が派遣され、8月中旬据付け工事を完了した。

現在、すべての機器が順調に機能しており、C/Pへの技術移転、オペレーターへの操作方法の教授等有効に活用されている。

保守・管理については、設備が新しいこともあり、システムチックな管理体制が確立しているとは言えないが、予備品、取扱説明書等の当面の管理は厳格に行われている。今後、当初納入の予備品以外のスペアパーツの購入や、補修費について、予算手当ても含めてメキシコ側で自主的に対応していく体制の確立が不可欠である。

以上について、本調査団は、機材の活用、保守・管理について、原則的にはCETE側が責任をもって行い、それに対して日本側は適切なアドバイスを出来る限り与えることを確認した。

図4-1(1) 文部省教育テレビ総局組織図

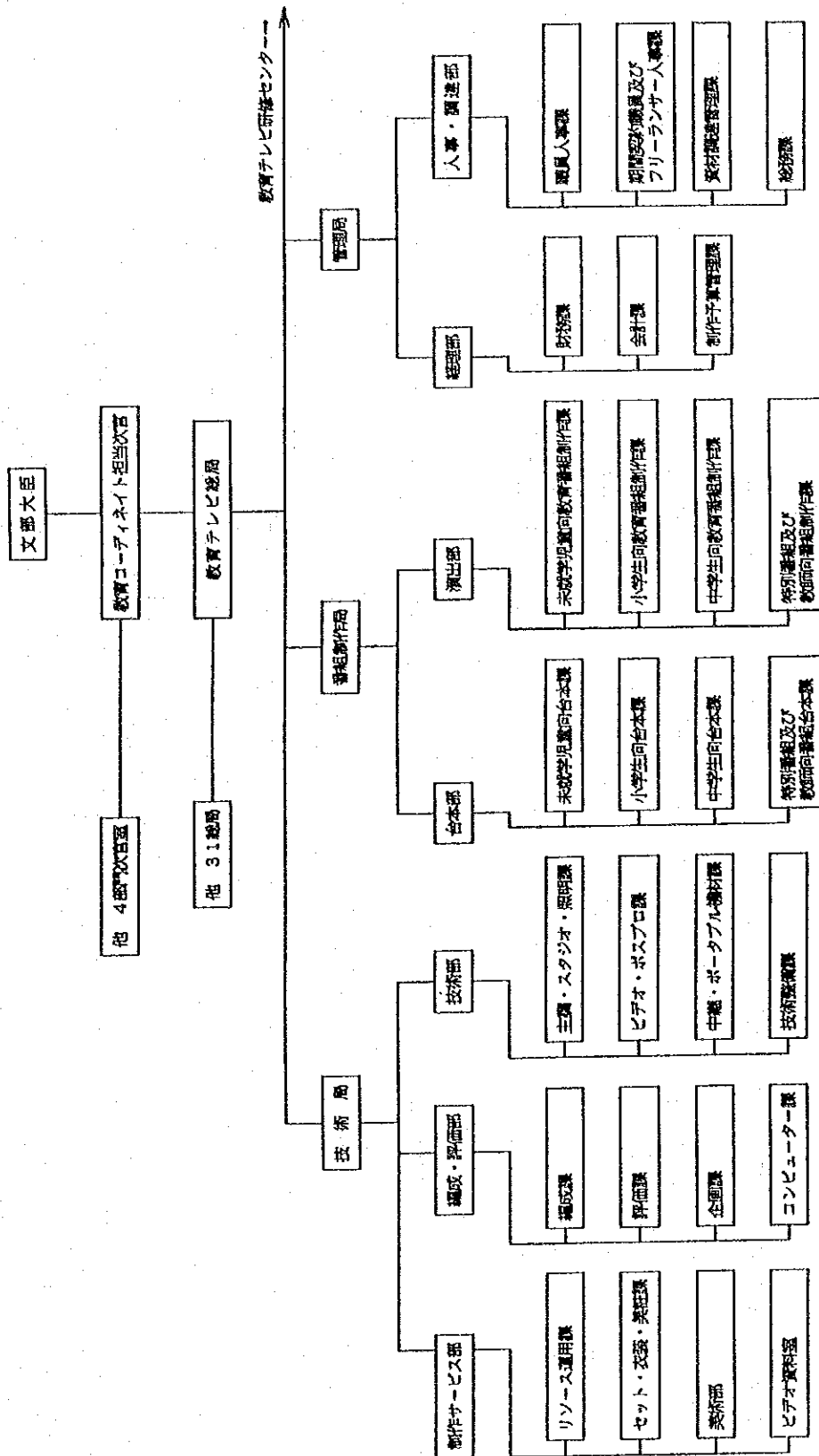


図4-1(2) 文部省によるCETEの公式承認組織図

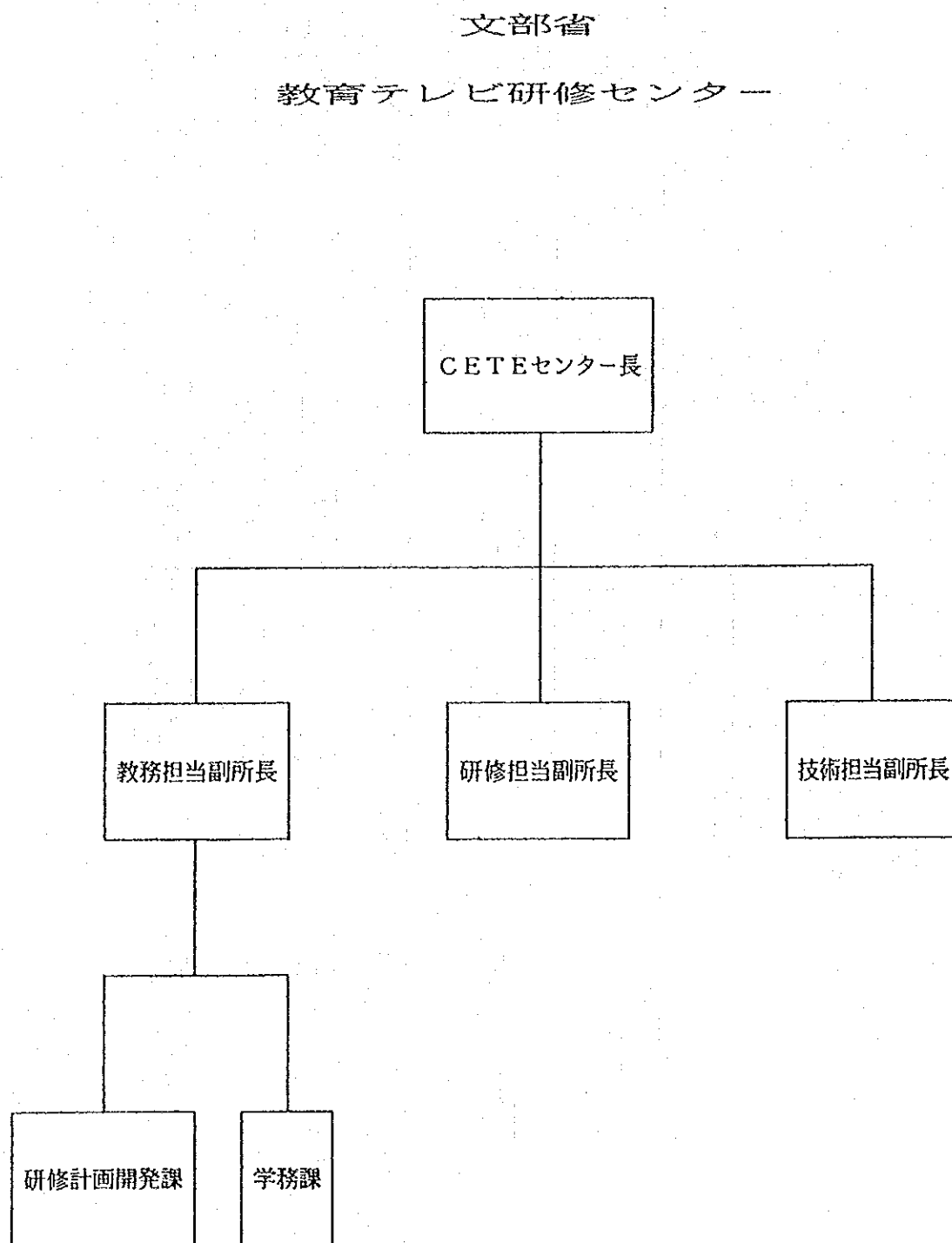
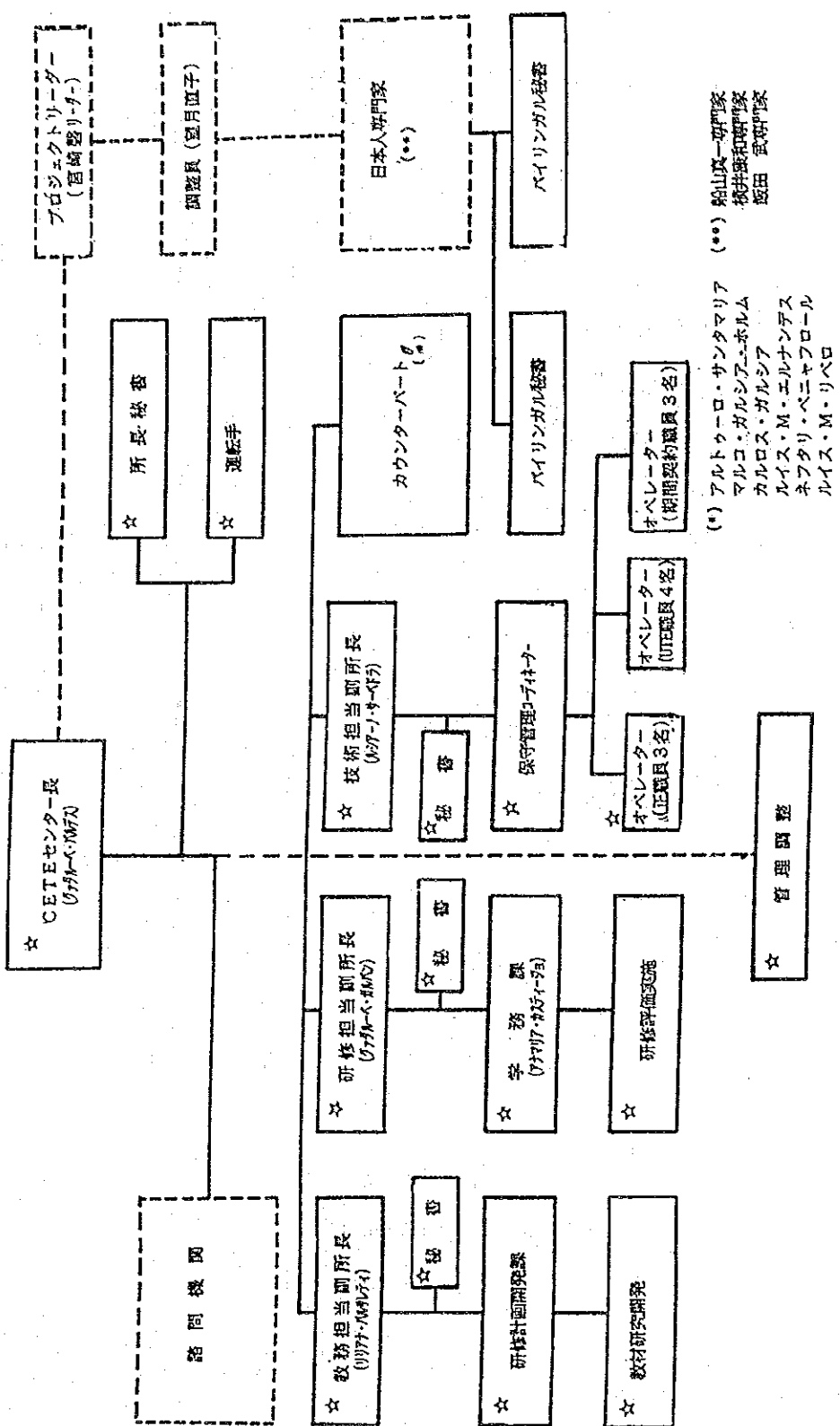




図4-1(3) CETEの将来構想



☆ 今年度認められたCETEの正職員

図4-1(4) CETE人員配置

職名	正職員数
センター長	1
センター長秘書	1
教務担当副所長	1
研修計画開発課長	1
業務アシスタント	1
学務課長	1
研修担当副所長	1
カメラマン	2
オーディオ・オペレーター	1
照明	1
技術担当副所長	1
管理調整課	1
保守管理課	1
秘書	3
バイリンガル秘書	2 *
運転手	1
計	20

\* バイリンガル秘書の身分は期間契約職員であり、  
給与は文部省官房の特別予算より支出される。

図4-2(i) CETEの1992年度支出

(1) 施設・機材購入費	450	
(2) 人件費	847	
(3) 供与機材の税金	475	
(4) CETE建物建設費	3,700	
(5) 機材設置経費	132.4	
(6) CETE研修実施費	78	
(7) 雑費	300	
	5,982.4	MILLONES
(約	250,000	千円)

図4-2(2) C E T E 1993年予算案

項目	1000	2000	3000	4000	5000	計
削減不可能	56,890万円		43,110万円			100,000万円
新規必要性		75,000万円	179,540万円	1,200万円	7,640万円	263,380万円
計	56,890万円	75,000万円	222,650万円	1,200万円	7,640万円	363,380万円

⑤ 3,050. <sup>10</sup>ペソ = 1ドル

項目1000= C E T E正職員の給与。カウンターパート6名及びバイリンガル秘書2名の給与は含まない。

⑥ C E T E正職員18名の給与。カウンターパート6名及びバイリンガル秘書2名の給与は文部省官房の特別予算枠からとなり、この中には含まれない。

項目2000= 事務用品、教材、またオーディオ機材、ビデオ機材、照明機材の部品の購入及びメンテナンス費、車両のメンテナンス費、維持管理費。

項目3000= 供与機材の設置、保守整備費。供与機材の引取りの際の経費、送料。また印刷、出版費。イベント、会議費。

項目4000= C E T E研修コースへの参加に経済的問題のあるC E T E以外のテレビ放送機関からの研修生への奨学金。

項目5000= C E T Eの業務推進に必要な動産、機材購入予算。

図4-3(1) CETE施設の立面図

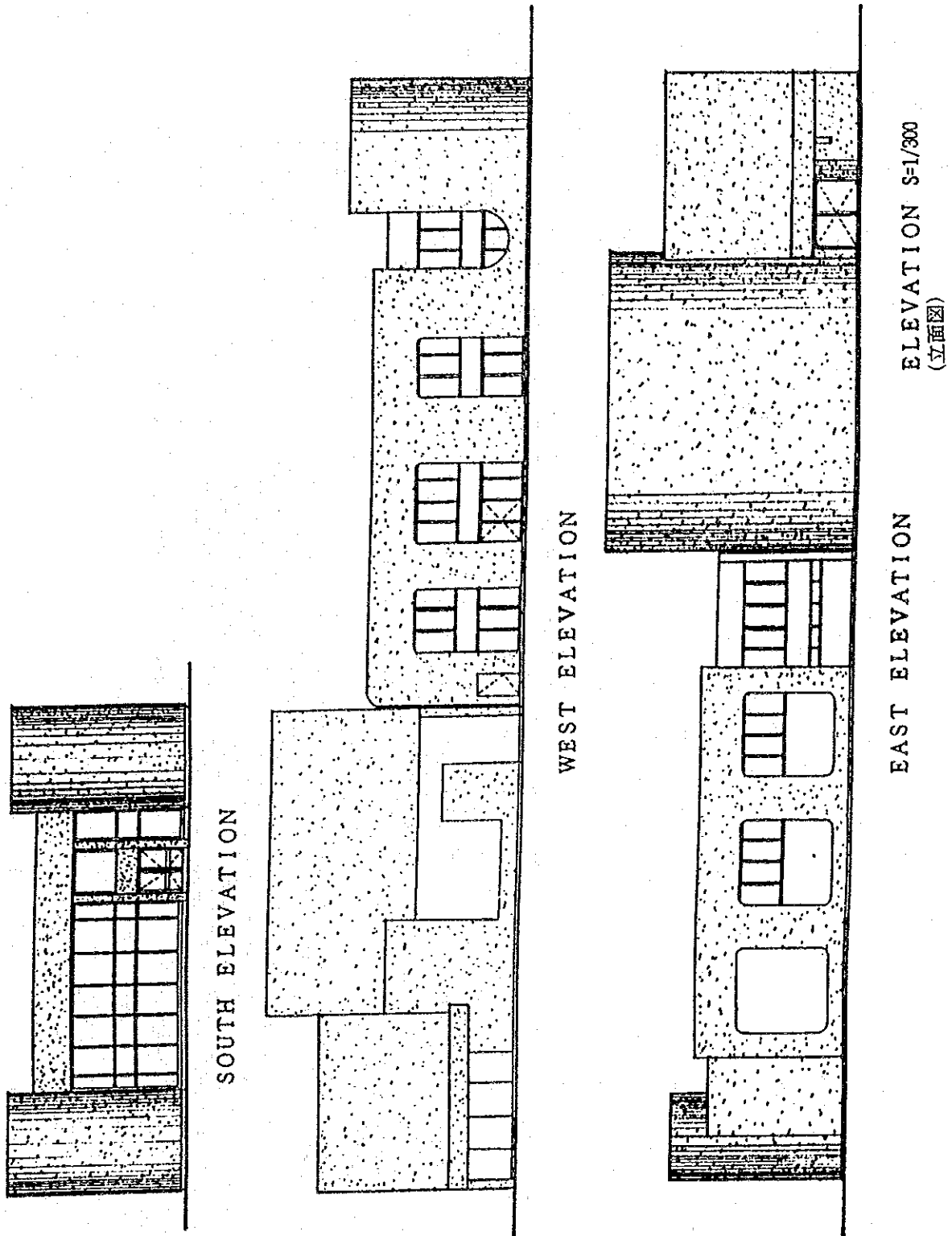


図4-3(2) CETE施設の平面図1階

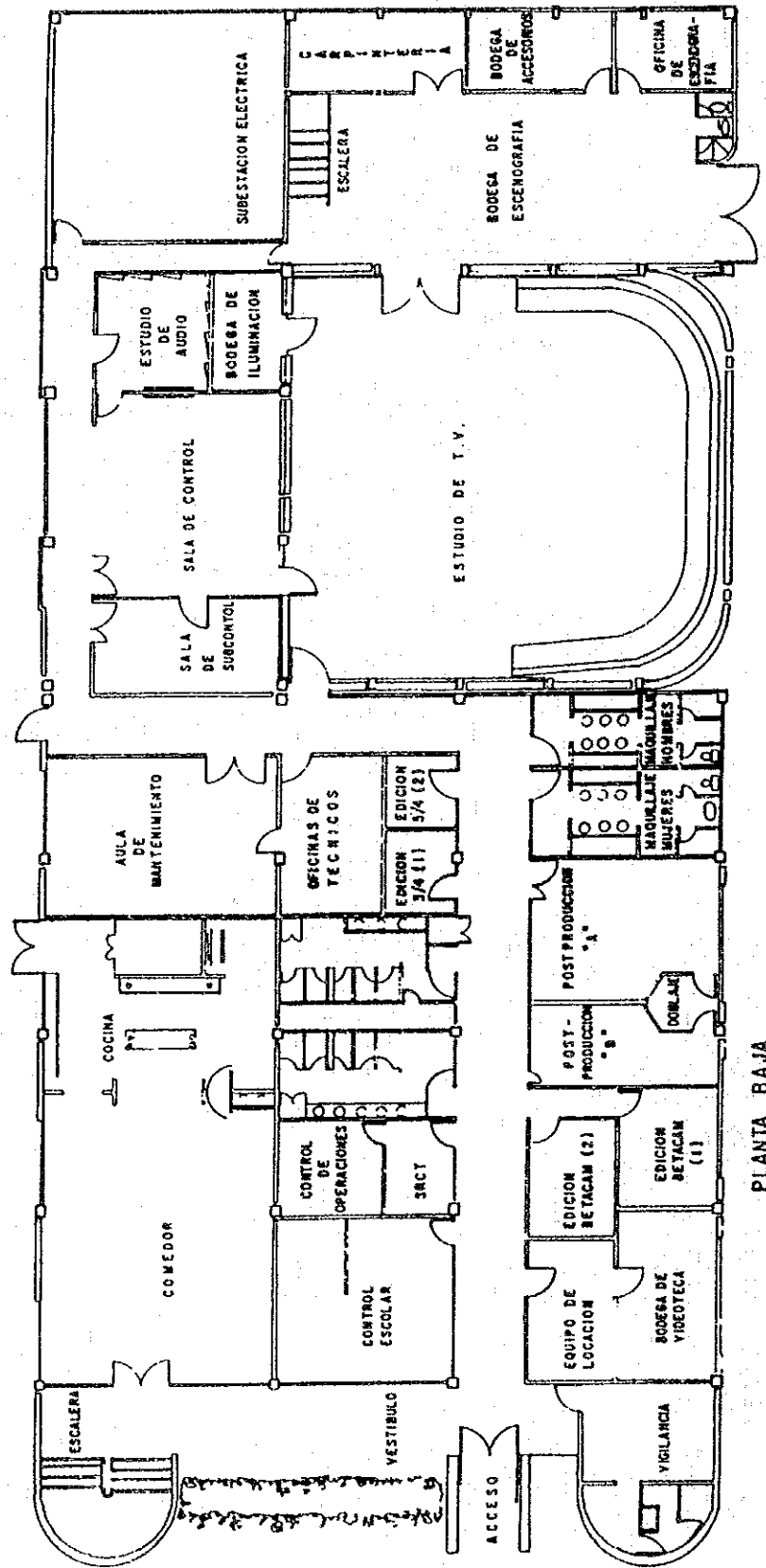
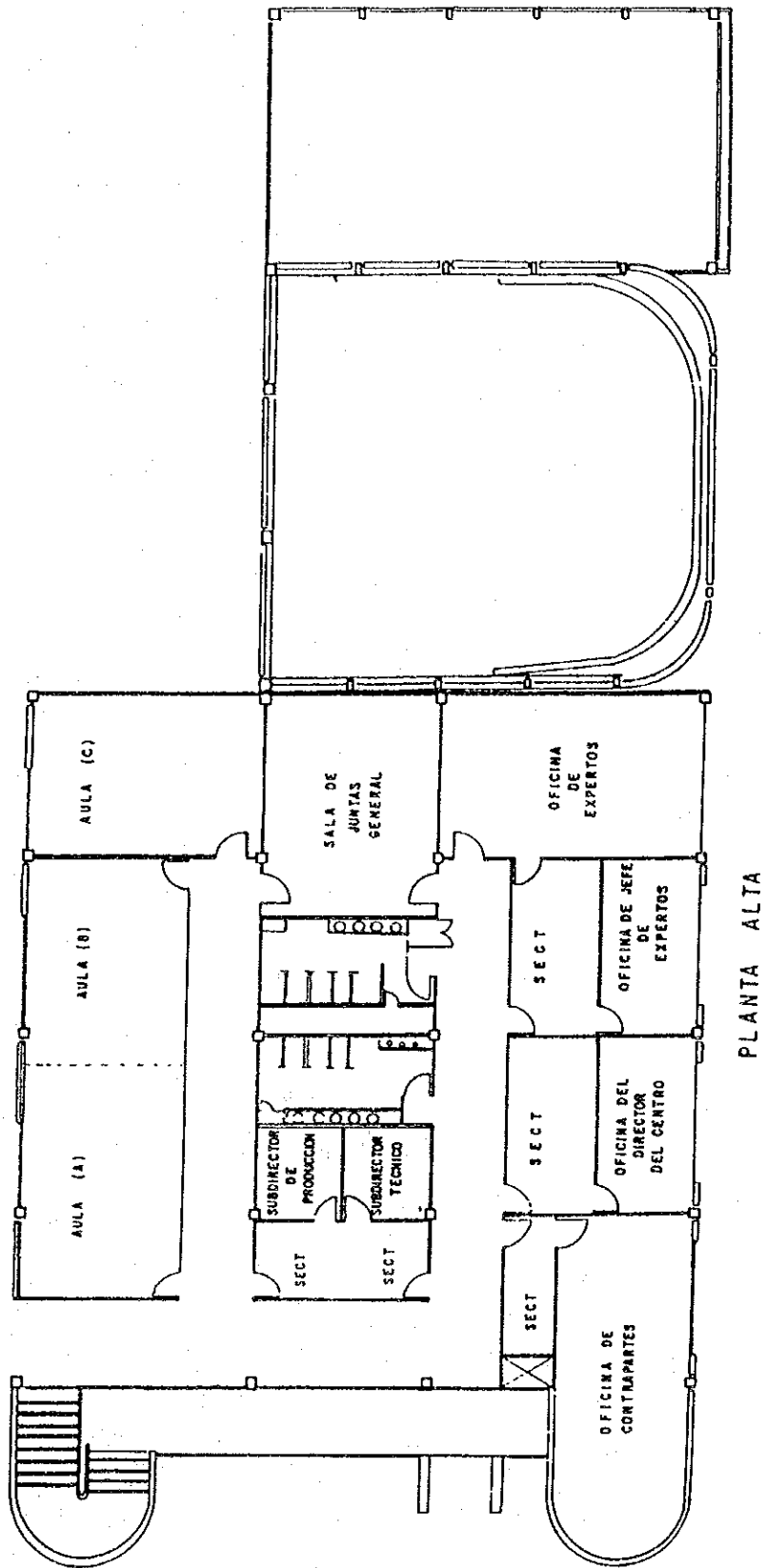


図4-3(3) CETE施設の平面図2階







## 5. プロジェクト実施上の問題点と対応策

### 5-1 CETE建物の完成

CETEのスタジオ内部の床と Horizont については、一旦工事は終了したものの、表面に凹凸がありカメラが自然に動いてしまったり、背景に影が生じるなど完成度の低いものとなっている。メキシコ側もこの点は認めており本年11月末までには修復したいとしているが、本建物を建設したCAPFCE（文部省の建築局）は主に学校の建築を行っており、スタジオの内装工事のような精度の高い工事を行う技術的能力に欠けているように見受けられる。従って、本件問題点を解決するには、今後日本人短期専門家の派遣等による十分な日本側の指導の下、工事を行う必要があるものと思料する。

### 5-2 92年度予算による供与機材

92年度予算による供与機材については、本プロジェクト開始前にリストアップされた機材がその後の価格の上昇により、全てを供与することが困難であることが、調査団出発前に判明した。今回調査団訪問時に右状況をメキシコ側に説明し、供与希望機材にプライオリティを付すよう提案したところ、メキシコ側からは、CETEの建物はこれら機材が日本から供与されることを前提として建設を行ったものであり、供与されない機材があるということは右機材用のスペースが無駄となってしまうので、今更困ると反発する場面があった。これについて調査団は、我が国としては機材リストに掲載されているもの全てを供与すると約束したわけではなく、予算の範囲内で対応せざるを得ないこと、また、供与されない機材についてどうしてもメキシコ政府として必要であると考えるのであれば自国の予算で調達すべきである旨説明した。結局、メキシコ側は我が方の状況を理解し、プライオリティを付した機材リストを提出した。

このように今回一応の理解は得られたものの、92年度調達機材から漏れた機材についてもメキシコ側は供与希望を強く持っており、93年度以降、仮に予算的に余裕ができた場合はその供与について検討すべきものと思料する。

またメキシコ側は、92年度供与機材の納入時期に大きな関心を有しており、調査団が口頭ベースで93年5月以降となる旨伝えたところ、メキシコ側は93年度の研修計画立案の都合があるので、納入をできる限り早く、かつ納入時期についても早く知りたいとの要望があった。調査団は、メキシコ側の事情を理解し、93年4月に開講する第2回の訓練コースの実施計画にできる限り影響を与えないよう調達手続きを速やかに実施し、また納入時期についても前広に専門家を通じ、メキシコ側に連絡する旨、メキシコ側に伝えた。

### 5-3 メキシコ側からの要望

今回の協議の際、以下の事項についてメキシコ側より調査団に対し要望があった。このうち、(イ)については、JICAのリーダー会議に間に合うよう要望人数分の要望調査表を作成し、提出するように依頼した(要望人数がそのまま承認されるかどうかは別問題であることは先方へ伝えた)。また、(ロ)～(ニ)については、前述5-2の状況から判断し、予算的の制約上供与が困難である旨、メキシコ側に伝えた。ただし、先方は特に野外ロケ用汎用車の供与を強く希望しており、今後も引き続き要望越すものと思われる。現地日本人専門家によると汎用車があると訓練コースが一層充実するとの意見もあり、仮に今後予算的に余裕が出来た場合は右供与につき検討する必要がある。

- (イ) カウンターパートの日本研修人数枠の増加(93年度については、5名をメキシコ側は要望)
- (ロ) コンピューターグラフィクス用機材(アニメーション制作用機材を含む)の供与
- (ハ) スタジオ用カメラクレーンの供与
- (ニ) 野外ロケ用の汎用車の供与

### 5-4 CETE運営のための要員及び予算の確保

CETEの運営に必要な要員及び予算の確保について、今回の協議の中で活発に意見交換が行われたが、今後実際に訓練コースが本格化してくると更に多くの技術操作要員及び運営経費が必要となることが予想される。については、人件費を含むCETEの運営経費を十分かつ持続的に確保するには文部省に対し予算確保の申し入れをするだけにとどまらず、大蔵省に対しても行う必要性がでてくることも予想される。

### 5-5 文部省の訓練コース受講者の認定

メキシコ側は、CETEで実施される訓練コースに対し、文部省の認定資格を付与しようとする計画があることを調査団に伝えた。これに対し調査団は日本側協力内容が何等かの制限を受けることはないのであれば特に問題視しないこととしたが、今後どのような形で実施されるのかを注視し、日本人専門家の活動に支障を来すのであればメキシコ側に改善を検討するよう申し入れる必要がある。

### 5-6 開所式の日程

当初計画では、開所式後に訓練コースを開始する予定であったが、開所式に出席予定の大統領の都合により、開所式の日程が延期されることになった。しかしながら、開所式の日程延期に合わせて訓練コース開講日程を延期することは訓練コース実施計画に与える影響が大

きいとの見方により、本調査団からも開所式日程の遅れが訓練コース開講に影響を与えないよう、メキシコ側に強く申し入れた。

その結果開所式日程は10月初旬とし、訓練コース開講は10月19日とする旨合同委員会にてメキシコ側の報告があり、開所式日程が訓練コース開講に影響を与えないことを確認した。



## 6. 各協力分野別プロジェクト実施計画

### 6-1 専門家派遣

92年10月中旬から、いよいよ具体的・計画的な研修がスタートする運びになり、長期専門家が、各分野での研修プログラムの遂行に果たす役割は極めて大きく、今後も、これまでと同数の長期専門家の派遣が望まれる。また、短期専門家についても、研修内容に対応して、適宜派遣し、充実した研修を全うできるよう努めるべきである。今回の協議の中で、CETE関係者より、これまでの1年半の研修経験のなかで、教育学のアプローチ面が欠けていた点を反省し、新たに教育学の研究者をふくめた専門家の長期的派遣の要望があった。しかし、この問題は、これまで派遣された長期専門家の位置付けや役割、また、ひいては研修そのものの目標・内容の設定などについて、あらたな課題が派生することにもなり、にわかには応じられない旨メキシコ側に了解を求めた。短期的には、放送教育にかかわる研究者・学識経験者の派遣であれば、検討の余地があるとしても、いずれにせよ、メキシコ側関係者及び日本人専門家による定期作業委員会で今後議論を煮つめることとした。

### 6-2 機材供与

92年度供与機材は諸物価上昇等の理由により、当初の計画を若干変更する必要が生じた旨メキシコ側に説明し、一応の理解を得た。メキシコ側から提出された機材の優先順位に基づいて機材リストを再構成し、早急に納入計画をまとめることとした。

- ・92年度前期分 93年5月以降同年12月までに納入完了
- ・ “ 後期分 納期決定後、速やかにメキシコ側に連絡

93年度以降の機材供与については、スペアパーツの供給を原則とし、まとまったシステムを導入することは困難である旨を伝えた。また予算的制約により、92年度供与機材から削除せざるを得なくなった機材について、93年度以降出来るだけ供与出来るよう配慮していくが、現段階で確約は出来ない旨説明した。

今回の協議の中で、メキシコ側から追加供与の要望があった機材については、前述（5-3メキシコ側からの要望）のとおり、アニメーション設備、小型中継車等については、今後も供与困難であることで、メキシコ側の理解が得られたが、屋外収録の実習については、日本人専門家もその必要性を強く主張しているところであり、今後小型中継車または可搬収録設備の供与が必要と思われる。

### 6-3 研修員受け入れ

91、92年度は3名ずつ受入れており、今後も少なくとも3名のカウンターパートの受け入れ

を実施することとするが、これまでの日本での研修実績から、メキシコ側から、帰国後すぐに生かせる、より実践的な内容で、もっと長時間かけた研修を望むと要望があった。今後は、カウンターパートの効率的かつ有効的な研修内容について、日本の受け入れ側と事前によく検討し派遣することとしたい。

#### 6-4 各協力分野別実施計画

R/Dに盛り込まれている研修（10コース）基本方針にしたがって、各分野の長期専門家は、各年度の研修内容を一層充実させ、カウンターパートらに、より高い専門的な知識と技術・能力を培うよう適切な指導と助言を行う。

この計画が着実に実施されれば、カウンターパートが、年度ごとに段階的にUTE職員だけではなく、メキシコシティ市内の放送局・プロダクションの職員、さらにメキシコ国内や近隣諸国からの参加者も受け入れて、系統的・多角的に研修を展開することができるであろう。また、CETE所長より、技術移転が終了する5年後以降は、CETEが中南米の放送界におけるリーダー的役割を担い、必要な助言・指導を行う機関となることを目標にしているとの発言があった。

現在文部省が進めている教育改革と対応して教育放送のクオリティを高めるために、CETEの充実を図ろうとするメキシコ側の意欲は強く、日本に対し一層の協力要請がなされた。

また、文部省としては、当訓練コースを終了した者には、有資格者として学歴と等しい認定を与えたいとの意向があることも伝えられた。

当面の来年度の暫定的な協力計画は、ミニッツのANNEXに付した。各訓練コースの実施は、開所式（当初は9月の予定だったが12月に）のスケジュールとは関係なく、独自に進められるよう、環境の整備がなされることが確認された。

また、各種の研修が予定どおりに確実に遂行されるためには、技術操作要員の支援が欠かせず、長期専門家から、当面11名の要員が確保されることが必須と強調された。これに対し、CETE側から、常勤要員としてUTE職員を5名は確保するが、足りない分はテンポラリーに採用・補充したいとの回答があった。

いずれにせよ、技術操作要員は、訓練コース実施に不可欠であるため、調査団はCETE側に対し、今後、より安定した要員の配置への努力を要望した。

## 7. 合同委員会の協議事項

### 7-1 合同委員会議事録

RESUMEN DE LA REUNION EJECUTIVA DE LA MISION  
JAPONESA CON EL C. OFICIAL MAYOR  
25 DE SEPTIEMBRE DE 1992.  
MEXICO, D. F.

#### 1.- INFORME GENERAL DE GRADO DE AVANCE DEL PROYECTO.

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau, explicando que el avance del proyecto es satisfactorio y tocó los siguientes aspectos:

- a).- Construcción y acabados del edificio
- b).- Inversión México-Japón para el proyecto
- c).- Envío de expertos japoneses
- d).- Becas otorgadas a mexicanos para recibir entrenamiento en Japón
- e).- Equipos de donación

Al respecto Japón respondió estar en general de acuerdo con lo expuesto por el Ing. Sabau, existiendo pequeñas diferencias sin importancia en las cantidades informadas.

#### 2.- SEPARACION DEL PRESUPUESTO DEL CETE, DEL PRESUPUESTO DE LA UTE A PARTIR DE 1993.

Este punto fué abordado por el Director General de Recursos Financieros, Lic. - Fernando Agraz, el cual dijo lo siguiente:

El presupuesto 1993 que se le asignará a CETE es consecuencia de la figura jurídica con lo que se originó este Centro.

Es intención de la Secretaría de Educación Pública que éste sea un órgano coordinado de la S.E.P., lo que le permite tener independencia presupuestal para ejercer sus recursos, misma que se regirá por la normatividad federal vigente en la SEP. Asimismo, expresó que, dada la figura de órgano coordinado, el CETE podrá captar recursos propios y tendrá la posibilidad de reinvertirlos en el mejoramiento del Centro. Indicó también que para llevar la contabilidad del CETE, se aprovechará la estructura administrativa que ya existe en UTE.

El Lic. Hisashi Mochizuki preguntó si el monto presupuestal del CETE sería el de UTE. El Oficial Mayor respondió que son presupuestos separados.

El Lic. Miyazaki, solicitó conocer el monto presupuestal autorizado para el CETE, ya que con base en esto puede solicitar un apoyo equivalente a Japón y hacer sugerencias para el buen desenvolvimiento del CETE.

El Oficial Mayor recalcó que aún cuando era mejor manejar el presupuesto del CETE desde UTE, se logró independencia presupuestal tal como lo solicitó la Misión Japonesa.

#### 3.- ESTRUCTURA ORGANICA DEL CETE.

Este punto fué abordado por la Directora del CETE, Lic. Guadalupe Valdés. Informó del Organigrama autorizado por el CIDAP de la SEP y señaló que falta la aprobación de la Secretaría de Hacienda.

Este punto fué abordado por la Directora del CETE, Lic. Guadalupe Valdés, Informó de l Organigrama autorizado por el CIDAP. de la SEP y señaló que falta la aprobación de la Srfa. de Hacienda.

La estructura orgánica aprobada para el CETÉ está conformada por: una - Dirección, 3 Subdirecciones, 2 Departamentos y 14 Plazas más de personal de apoyo.

El Lic. Miyazaki sugirió tratar lo de las 14 plazas más los Contrapartes Mexicanos, en el punto 6 de la Agenda. El Oficial Mayor respondió, estar de acuerdo.

#### 4.- NOMBRAMIENTOS.

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau expresando que a la fecha, el único nombramiento oficial es el Director del CETE y que está cubierto - por la Lic. Valdés. Asimismo, expresó que los nombramientos restantes - correspondientes a los Subdirectores, el Personal Operativo y los Contra partes, se harán a finales de este mes con el objetivo principal de ini- ciar la plena operación del CETE con esta nueva estructura en el mes de octubre del año en curso.

#### 5.- NUMERO TOTAL DE CONTRAPARTES Y MODIFICACION DE SALARIOS.

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau. Se comentó que aunque el nú- mero total de Contrapartes mexicanos que señala el Record Discusión fir- mado el 18 de marzo de 1991, es de 6, se contratará a un asistente más - de la petición de Japón de incrementar este número.

Este asistente podrá auxiliar en cualquier momento a cualquiera - de los 6 contrapartes oficiales, e indicó que esto se realizaría desde - el mes de Octubre, también solicitó que todos ellos tengan un sueldo de 2,000 dólares mensuales a partir del mes de septiembre.

Al respecto, el Oficial Mayor apunto que ésto no podría realizarse desde septiembre, por lo que se realizaría a partir del 1° de octubre.

#### 6.- CONTRATACION DEL RESTO DE LA PLANTILLA DE PERSONAL

Este punto fue abordado por el Ing. Sabau. Informó que esto se resuelve con las plazas ya autorizadas. Las dos Secretarias Bilingües serán con- tratadas por honorarios a partir del 1° de Octubre de 1992.

En este punto, el Lic. Miyazaki externó su preocupación para cubrir el personal operativo, e informó que el número mínimo de personal operativo requerido para la realización de los cursos era de 11. Al respecto, el Ing. Sabau respondió que esta petición será cubierta mediante 4 plazas - del CETE, /4 plazas adicionales que pondrá UTE de su personal y 3 más que serán contratadas por honorarios.

Después de esto, el Oficial Mayor dijo que todo lo anterior estaba sien- do previsto por la Oficialía Mayor para que quedara totalmente registra- do.



En este punto, aún cuando no formaba parte de la Agenda de Trabajo, el Lic. Miyazaki hizo la observación de que ningún Contraparte se encontraba presente, y que era requisito marcado en el Record Discussion de que los Contrapartes Mexicanos deberían de estar presentes en esta Junta. El Ing. Sabau respondió al respecto que, por cuestiones de falta de espacio en el lugar de la reunión se había omitido la presencia de los Contrapartes, pero que éstos estaban representados por la Lic. Valdés y el Ing. Saavedra.

El Oficial Mayor respondió que este tipo de omisiones no se llevará a cabo en las subsecuentes reuniones.

#### 7.- DISPOSICION PRESUPUESTAL A PARTIR DE 1993.

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau. Informó que para 1993 se solicitó un presupuesto de 3,633 millones de pesos, el cual de acuerdo al análisis efectuado por la Comisión designada al respecto por el Oficial Mayor, era suficiente para la operación y avance del CETE:

- a) mantenimiento de la estructura orgánica aprobada.
- b) contrataciones por honorarios
- c) operación de los cursos
- d) mantenimiento del edificio, etc.

Asimismo, dijo que se estaba en espera de la autorización oficial a este presupuesto y que esta autorización no dependía de la Oficialía Mayor, pero que a finales de octubre de este año sería posible conocer la disposición presupuestal final. En este punto, el Oficial Mayor dijo que la autorización depende de Hacienda, pero que no obstante se compromete a apoyar las gestiones para conseguir que el presupuesto solicitado sea autorizado en su totalidad.

El Lic. Miyazaki dijo que dada la experiencia que tiene en cuanto a manejo administrativo en el Gobierno Mexicano, normalmente el presupuesto autorizado es menor al solicitado. Preguntó si, en caso de suceder alguna reducción a este presupuesto, se afectaría el número de plazas del CETE. Al respecto, el Oficial Mayor, dijo que esto no era posible, dado que toda la plantilla operativa del CETE estaba considerada en una partida presupuestal que es irreductible su techo financiero. Con lo cual, señaló que sería imposible que se afectara la plantilla operativa del Centro.

#### 8.- TERMINO DE OBRAS Y ENTREGA DEL INMUEBLE

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau. Expresó que aún cuando el avance en la construcción del inmueble es satisfactorio, ésta no cubre con los requisitos mínimos marcados por los Expertos Japoneses, principalmente en lo referente al piso del estudio y ciclorama del mismo. Indicó que actualmente se cuenta con una minuta de trabajo donde CAPFCE se compromete a la terminación de los faltantes. Solicitó que en esta Junta, el personal que representaba al CAPFCE informará al respecto. El Ing. Ernesto Senties Armendariz, Gerente de Obras Especiales de CAPFCE, respondió que se comprometía a que todos los detalles menores, a excepción de piso y ciclorama del estudio, quedarán totalmente terminados el 15 de octubre del año en curso y que en esta misma fecha se comprometió a dar un análisis del piso y ciclorama así como un método a seguir para obtener satisfactoriamente los requisitos solicitados por Japón. Informó también que el 15 de Octubre indicará la fecha de entrega del inmueble en su totalidad.

El Ing. Sabau solicitó una fecha previa, a lo cual el Ing. Senties respondió que la fecha más lejana para entregar el inmueble en su totalidad, incluyendo piso y ciclorama del estudio terminados satisfactoriamente, sería el 30 de noviembre de 1992.

El Oficial Mayor preguntó cuál sería la fecha más cercana, el Ing. Senties respondió que esto dependería del análisis y dictamen practicados al piso del ciclorama.

El Lic. Miyazaki preguntó si es correcta la fecha del 15 de octubre en todos los demás detalles, así como la del 30 de noviembre y también preguntó a los Expertos si es posible iniciar los cursos, a lo cual el Ing. Oi respondió que 5 de los 8 cursos se verían afectados por estos tiempos.

El Ing. Sabau, dijo que era necesario programar la reparación del piso cuando no se esté empleando, a lo cual respondió el Ing. Oi, que es posible reprogramar los cursos para que no se vean afectados, sí y solo sí CAPFCE se compromete a tener totalmente entregado el inmueble con piso y ciclorama satisfactoriamente al 30 de noviembre de 1992.

El Lic. Miyazaki expresó que se desea por parte de Japón realizar cursos de alto nivel y que si no se tiene un estudio que cumpla con los requisitos marcados no podrán darse cursos con alta calidad. Asimismo, dijo que la reprogramación de cursos se efectuaría en las Juntas de Trabajo normales en el CETE. y también dijo que CAPFCE, aún cuando es una Institución con alta experiencia en construcción de escuelas, no cuenta con la experiencia para la construcción de Estudios de Televisión y recomienda que CAPFCE debería consultar con expertos que se dedican a la construcción de este tipo de estudios como canal 11, canal 13, Televisa, etc. CAPFCE respondió diciendo que es correcta su aseveración y que está realizando la consulta en esos medios televisivos.

#### 9.- DETERMINACION DE LA FECHA DE INAUGURACION

Este punto fue abordado por el Oficial Mayor, el cual dijo que el 26 de octubre informará la fecha en que se inaugurará Oficialmente el Centro, dependiendo de si asiste el Presidente de la República o sólo el Dr. Zedillo. Se mencionó como fecha tentativa las primeras semanas de diciembre.

El Lic. Miyazaki dijo que es un acuerdo con el Ing. Sabau que se inicien los cursos en base a lo programado y solicitó que la fecha de inauguración no afecte la impartición de estos cursos.

El Oficial Mayor dijo que es posible que la inauguración la efectúe el Sr. Presidente. y le pregunta a la Misión Japonesa si no tenía inconveniente alguno en que la inauguración la realizará el Presidente o el Secretario. Japón respondió que está totalmente de acuerdo y que no tiene inconveniente alguno, y fecha de inauguración cuando menos un mes antes de que ésta suceda para girar las invitaciones correspondientes a los invitados Japoneses.

El Ing. Sabau dijo que el Oficial Mayor es quien debe definir si inician los cursos antes de la inauguración. El Oficial Mayor respondió que está totalmente de acuerdo y que no tiene inconveniente alguno en que se inicien los cursos mencionados.

**10.- PROGRAMA DE ENTREGA DE EQUIPO FALTANTE.**

Este punto fué abordado por el Ing. Sabau indicando que la entrega del equipo se rá informado según lo acordado con la Misión.

La Misión de Japón señaló que la entrega se hará en dos partidas y que en octubre darán la fecha de la primera de ellas.

Respecto de la segunda partida, señaló que no tienen aún elementos para comprometer una fecha definida.

## 7-2 仮 訳

### 文部省官房長と日本ミッションとの合同委員会議事録

1992年9月25日

メキシコ・シティー

#### 1. プロジェクト進捗度に関する一般報告

この点に関しては、サバウ氏（UTE局長）からプロジェクトの進捗度は申し分のないものであると説明、かつ以下の点に触れた。

- a) 建物の建設と仕上がり
- b) プロジェクトへのメキシコ及び日本の資金投入
- c) 日本人専門家派遣
- d) メキシコ人研修員日本受入
- e) 供与機材

これらについて日本側は報告された数字について多少差異はあったものの、サバウ氏の述べたことに全般的に合意した。

#### 2. 1993年以降CETEとUTEの予算の切り離し

この点に関しては、財務局局長フェルナンド・アグラスが以下について述べた。CETEに割り当てとなる1993年度予算は、本センターの法的基準に則ったものでなければならない。

文部省の意図は、これが文部省の規定に従った機関となり、その資産を使用するにあたり、独立した予算を持つことを認め、同時に文部省の中で、現行の連邦規範に基づき運営されることである。これによりCETEは独自の資産を獲得することができ、センターの改善のためにそれを再投資する可能性もあると述べた。また、CETEの経理には現存のUTEの管理機構を利用すると指摘した。

望月久氏（JICAメキシコ事務所長）は、CETEの予算額はUTEのそれに相当するのかと質問し、文部省官房長は別予算であると回答した。

宮崎氏（プロジェクト・リーダー）は、CETE用に承認された予算額を知らせてほしいと要請した。それを基に、日本にその額に見合った協力を求めると共に、CETEの発展のため助言をすることができるからである。

文部省官房長は、CETEの予算はUTEから管理した方が良いと強調したものの日本ミッションが要請した通り、予算独立が決定した。

#### 3. CETEの組織

この点に関しては、CETE局長グァダルーベ・バルデス所長が話し、文部省のCIDAPによって承認された組織図について報告し、大蔵省の承認が必要であると述べた。

CETE用に承認された組織図は1つの局長室（DERECCION）、3つの副局長室（SUBDIRECCION）、2つの部（DEPARTAMENTO）、14名の職員及び補助人員からなっている。

宮崎リーダーは14名の職員に加え、メキシコ人カウンターパートについて、議事日程の第6番で扱うように示唆した。文部省官房長はそれに合意した。

#### 4. 任命

この点に関してはサバウ局長が話し、今のところ公式な任命は唯一C E T Eの所長であり、バルデス所長がその役職にあると述べた。同時に残りの副所長、職員、カウンターパートの指名については、今月の終わりに行いたい。その主たる目的は本年10月から新しい組織でのC E T Eの完全運営を始めるためであると述べた。

#### 5. カウンターパートの人数と給与の改定

この点に関してはサバウ局長が話をした。1991年3月18日に署名したR/Dによるとメキシコ人カウンターパートの総数は6名となっているが、この人数を増やすようにとの日本側に要求により、もう1名アシスタントを契約することにする。

このアシスタントは、いつでも6名の正式なカウンターパートを補助することができ、これは10月より実施すると述べた。また、9月以降、彼ら全員の給料が月額2000ドルになるよう要請した。

本件について文部省官房長は、給料アップは9月からの実施は不可能であるが、10月1日より実施すると述べた。

#### 6. 残りの常勤職員の契約

この点に関してはサバウ局長が話をした。これは、すでに承認されている職員ポスト数で解決すると報告した。バイリンガルセクレタリー（2か国語のできる秘書）2名は、1992年10月1日より、契約職員の形で雇う。

宮崎リーダーは職員数に関する不安、即ちコースを実施するために最低必要なオペレーターの人数は11名であると述べた。これについてサバウ氏は、C E T Eの4名の職員、U T Eの職員からの追加4名、さらに3名を契約職員で雇うことで、この要求はカバーできると回答した。その後、文部省官房長は前述については、官房で予想していたことであり、全て承知できると述べた。

議事日程にはなかったが、宮崎リーダーはカウンターパートが1名も出席していないことを指摘し、メキシコ人カウンターパートがこの会議に出席することはR/Dにあることだと述べた。サバウ局長はこれについて、会議場所のスペースの関係上カウンターパートの出席を省いたが、バルデス所長、サーベドラ氏によって代表されるとの回答をした。

文部省官房長は、このような省略は今後の会議では行わないと回答した。

#### 7. 1993年以降の予算手配

この点に関してはサバウ局長が話をした。1993年の予算として36億3300万ペソを申請したと報告した。これは文部省官房長によって任命された担当の委員会によって行われた分析に基づくものであり、C E T Eの運営と進捗、即ち、a)承認された組織の維持、b)契約職員の雇用、c)コースの実施、d)建物のメンテナンス等のために十分なものである。

また、この予算の正式な承認を待っており、この承認は官房長の担当ではないが、本年10月末には最終予算がどうなったか分かるだろうと述べた。文部省官房長はこの点について、承認は大蔵省が行うものであるが、申請予算が全面的に承認されるよう援助すると約束した。

宮崎リーダーは、これまでの経験からメキシコ政府のやり方としては、通常、承認予算は申請額より少ないものになることを指摘した。もし、この予算に何らかの削減があった場合、CETEの職員数に影響するのではないかと質問した。これについて、文部省官房長は、その可能性はなく、CETEの常勤職員全ては、これ以上削減できない予算項目だと考えられていると述べた。即ち、センターの常勤職員に影響が出るのは不可能であることを指摘した。

#### 8. 工事終了と建物の引き渡し

この点に関しては、サバウ局長が話をした。建物の建設進捗状況は満足のいくものであるが、日本人専門家が提示する最低条件、特にスタジオの床と Horizont が完全でないとした。現在のところ、CAPFCEが不足部分を終わらせると約束した作業メモがあり、この会議において、CAPFCEの代表者が本件について報告するように要請した。CAPFCEの特別工事部長であるエルネスト・センチエス・アルメンダリス氏は、スタジオの床と Horizont 以外の詳細部分に関しては、全て本年10月15日までに完成させ、また、この日に日本側が要請した条件を満たすための方法と、床・Horizontに関する調査結果を提出することを約束した。同時に、10月15日に建物の全面引き渡しの日程を提示すると報告した。

サバウ局長は予想日程がいつごろになるかと尋ね、それに対してセンチアス氏はスタジオの床と Horizont の完成を含めて、建物の全面引き渡しは、遅くとも1992年11月30日であると回答した。

文部省官房長は、早ければいつごろになるかとセンチアス氏に尋ねたところ、床と Horizont に関する調査報告次第であると回答した。

宮崎リーダーは、その他全てについては10月15日完了であり、また最終完成の11月30日という日付が正しいものであるかと質問した。また大井専門家に対して、こうした状態でコースの開始が可能であることを確認した。それに対して大井専門家は、この日付では8つのコース中5つに影響が出るだろうと答えた。

サバウ局長は、床工事は使用されていない時に行う必要があると述べたのに対し、大井専門家は、影響を避けるためコースの日程を組み直すことが可能である。但しCAPFCEが1992年11月30日までに床と Horizont を完成、建物の全面引き渡しをすることを約束した上でのことであると述べた。

宮崎リーダーは、日本側ではレベルの高いコースの実施を望んでいるので、指摘の条件を満たすスタジオがなければ、高レベルのコースは実施できないと述べた。コースの日程組み直しは、CETEの通常の打ち合せの中で行うものとする述べ、また、CAPFCEは学校建設については豊富な経験を持っているが、テレビスタジオの建設に関しては経験がない。それゆえ、11チャンネル、13チャンネル、テレビサのようなスタジオ建設に携わる専門家に相談すべきであると勧めた。CAPFCEは、この忠告はもっともなことであり、これらのテレビメディアへの相談を行っているかと答えた。

#### 9. 開所式の日付決定

この点に関して、文部省官房長から話があり、10月16日にセンターが正式に開所する日程を通告すると述べた。これは共和国大統領が出席するか、文部大臣セディジョ氏のみ出席になるかによって決まるものである。今のところ、12月の初めの数週のころになるだろうと述べた。

宮崎リーダーは、計画に従ってコースを始めるのはサバウ局長との合意によるものであり、開所式の日程がコースに影響しないよう要請した。

文部省官房長は、大統領が開所式を行うことが可能であると述べた。同時に、日本ミッションに対して、大統領または大臣が開所式を行うことに何らかの不都合があるかと質問した。日本側は、問題がないことに全面的に合意し、不都合はないが、開所式の少なくとも1か月前に日本の招待客に招待状を送付しなければならないと回答した。

サバウ局長は、文部省官房長が開所式の前にコースを始めるかどうかを決めるべきだと述べた。文部省官房長は、コース開始に全面的に賛成であり、前述のコースを開始しても何の不都合もないと答えた。

#### 10. 未供与機材の引渡し計画

この点に関しては、サバウ局長が話し、機材の引渡しはミッションとの合意に基づき報告されると述べた。

日本ミッションは、引渡しは2回に分けて実施し、10月には第1回分の日程を通告すると述べた

第2回目については、はっきりとした日程を約束するための材料がまだないと述べた。





## 附 属 資 料

- 平成4年度供与機材優先順位リスト
- 訓練コース実施計画案（4年度）
- カリキュラム・授業計画
- 訓練コース参加予想人数調査



・平成4年度機材優先順位リスト

SECRETARIA DE EDUCACION PUBLICA  
UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA  
C.E.T.E.

LISTA DE EQUIPO DE ACUERDO A PRIORIDADES

<u>No.</u>	<u>EQUIPO</u>	<u>OBSERVACION</u>
1.	EQUIPO DE POST PRODUCCION "A" (ボスプロ)	SE REQUIERE DE TODO EL EQUIPO CON UNA ALTA PRIORIDAD.
2.	EQUIPO DE EDICION BETACAM (ベータカム編集機材)	SE REQUIERE DE TODO EL EQUIPO DE LAS DOS CABINAS CON UNA ALTA PRIORIDAD
3.	EQUIPO DE GRASS VALLEY GROUP (IPS-110)	SE REQUIERE CON UNA ALTA PRIORIDAD
4.	EQUIPO DE ESTUDIO (スタジオ機材)	SE REQUIERE CON UNA ALTA PRIORIDAD TODO ESTE EQUIPO
5.	EQUIPOS PORTATILES (ポータブル機材)	SE REQUIERE UN EQUIPO PORTATIL CON ALTA PRIORIDAD
6.	EQUIPO DE MEDICION (MANTENIMIENTO) (計測器)	TODO EL EQUIPO ES REQUERIDO CON UNA ALTA PRIORIDAD, PERO DE ACUERDO CON LA RESTRICCIÓN PRESUPUESTAL SE PUEDE CONSIDERAR QUE TODO LO RELATIVO AL AUDIO ANALIZADOR Y AL GENERADOR DE SEÑALES ES DE BAJA PRIORIDAD, CON LO CUAL ESTAMOS SITUANDO LA MITAD DE ESTE EQUIPO EN COSTO CON BAJA PRIORIDAD.
7.	EQUIPO PORTATIL	SE REQUIERE DE UN EQUIPO PORTATIL CON UNA BAJA PRIORIDAD.
8.	EQUIPO DE EDICION 3/4	ESTE EQUIPO AL IGUAL QUE LOS ANTERIORES SE SOLICITA CON UNA ALTA PRIORIDAD, PERO POR EL MISMO MOTIVO DE LA REDUCCION PRESUPUESTAL ES POSIBLE CONSIDERARLO DE BAJA PRIORIDAD.
9.	1 MAQUINA VTR-BVH-3000 (1 PULGADA)	SE CONSIDERA DE BAJA PRIORIDAD
10.	CINTAS DE VIDEO	EL LOTE DE CINTAS ES REQUERIDO CON UNA ALTA PRIORIDAD, PERO DADA LA RESTRICCIÓN PRESUPUESTAL SE CONSIDERA CON BAJA PRIORIDAD.

NOTA: LA PRIORIDAD DE LOS EQUIPOS SE TOMO CONSIDERANDO EL MENOR DAÑO POSIBLE A LOS CURSOS QUE SE IMPARTIRAN EN ESTE CENTRO, NO OBSTANTE ES IMPORTANTE RECALCAR QUE CUALQUIER CANCELACION EN ESTE LISTADO REPERCUTIRA EN LOS MISMOS.



・平成4年度訓練コース実施計画案

訓練コース準備状況と訓練コース実施計画の見直し

(注) 9月4日作成の訓練コース案に基づきメキシコ側と協議した結果、下記のような補正を加えた。

コース	予定 人数	週	回数	時間	開始時期	備考
①テレビカメラ技術	8	2	10	9:00-15:00	10月19日	9月番外コース実施 1993年3月に第2回
②照明技術	10	2	10	9:00-15:00	1993年 2月15日	
③映像・VTR技術	10	6	28	9:30-13:30	10月19日	
④音声技術	10	2	10	9:00-15:00	1993年 3月1日	
⑤編集・ポスト プロダクション	10	3	9	9:00-15:00	11月9日	
⑥機器の保守技術	10	4	19	9:30-13:30	1993年 1月11日	
⑦番組制作(基礎)	12	3	15	9:00-12:00	10月19日	1993年1月-3月に 第2回実施
⑧番組制作(応用)	12	3	15	9:00-12:00	11月23日	
⑨その他の特別研修 (1)放送に関する 調査研究	12	5	24	10:00-14:00	7月21日	飯森短期専門家により 既に実施済み 短期専門家招請 短期専門家招請
(2)スタジオ美術	10	6	28	10:00-15:00	11月4日	
(3)音声技術	10	6	28	9:00-15:00	1993年 1月12日	
(4)VTR 保守・整備	10	6	28	9:30-13:30	1993年 2月9日	
⑩番組制作実習	12	3	15	9:00-12:00		スタジオの空きを見て実施

尚、本コース案はCETEの施設完成状況(92年度供与機材据付を含む)により左右される。



## カリキュラム・授業計画

1. カメラ
2. 照明
3. 映像技術とVTRカリキュラム
4. 音声
5. 編集及びポスト・プロダクション
6. メンテナンス用カリキュラム
7. 番組制作（基礎）
8. 番組制作（応用）
9. 番組制作（実習）





1. カメラ

PROGRAMA DEL CURSO DE CAMARA (PLAN) 8 DE SEPTIEMBRE 1992

HORA DIA	9	10	11	12	13	14	15	
1 (LUN)	PRESENTACION, INTRODUCCION		CONOCIMIENTO DE LA CAMARA		DESCANSO			CONOCIMIENTO DE LA CAMARA PRACTICA CON LA CAMARA (ESTUDIO)
2 (MAR)	CONOCIMIENTO DELLENTE							CONOCIMIENTO DELLENTE
3 (MIE)	TAMAÑOS BASICOS DE LA TOHA							PRACTICA CON LA CAMARA (ESTUDIO)
4 (JUE)	MANEJO DE LA CAMARA							PRACTICA CON LA CAMARA (ESTUDIO)
5 (VIE)	COMPOSICION DE LA IMAGEN							COMPOSICION DE LA IMAGEN PRACTICA CON LA CAMARA (ESTUDIO)
6 (LUN)	OPERACION DE LA CAMARA EN DIFERENTES TIPOS DE PROGRAMAS							PRACTICA CON LA CAMARA (ESTUDIO)
7 (MAR)	LOCACION (PREPARATIVOS Y CUIDADOS PREVIOS A LA GRABACION)							PRACTICA CON LA CAMARA (LOCACION)
8 (MIE)	LOCACION (GRABACION)							PRACTICA CON LA CAMARA (LOCACION)
9 (JUE)	SWITCHEO EN LA TELEVISION							PRACTICA DE SWITCHEO (ESTUDIO)
10 (VIE)	EVALUACION							COMENTARIO CEREMONIA DE CLAUSURA
1° SEMANA								
2° SEMANA								

## 2. 照明カリキュラム

### I. テレビ照明の基礎

- 1) 照明の目的
  1. 物の見え方とテレビのライティング
  2. 照明の目的
- 2) 照明の基本的条件
  1. 照度
  2. 輝度バランス
  3. 色温度
  4. 演色性
  5. 陰影
- 3) 照明の単位
  1. 光とは
  2. 光の量に関する単位
- 4) 照明の種類
  1. 光の方向からの分類
  2. 用途別の分類
  3. トーン分類
  4. 光源の性質からの分類

### II. 実際の照明

- 1) 対談番組照明
  1. 人物1人の照明
  2. 人物2人の照明
  3. グループの照明
  4. 対談番組の照明
- 2) ドラマ照明
  1. ドラマ照明とは
  2. ドラマ照明の技法
    - (1) 天候の表し方
    - (2) 時刻の表し方
    - (3) 屋外 昼シーン
    - (4) 屋外 朝・夕方シーン
    - (5) 屋外 夜シーン
    - (6) 室内 昼シーン
    - (7) 室内 夜シーン

### 3) 音楽照明

#### 1. 音楽照明の基礎

##### 1-1 音楽照明の特徴

##### 1-2 照明と色彩

(1) 色と感情

(2) 色の性質

(3) 色の見え方

##### 1-3 コントラスト照明

(1) 立体感を作る

(2) 奥行き感

#### 2. 音楽照明の技法

##### 2-1 基本的プランニング

##### 2-2 具体的技法

(1) 人物照明

(2) セット照明

(3) ホリゾン照明

(4) フロアー照明

(5) 空間照明

##### 2-3 実際の照明

(1) クラシック音楽の照明

(2) 軽音楽の照明

(3) 伝統的音楽の照明

### III. ロケーション照明

#### 1. 出発まえの準備

#### 2. ロケーション照明の基本

#### 3. ロケーション照明の実際

(1) 屋外照明

(2) 室内照明

(3) 安全対策

### IV. 照明の特殊効果

#### 1. タッチライト

#### 2. 特殊技法

### 3. 映像技術とVTRカリキュラム

#### I. NTSCテレビジョンの基礎

##### 1. カラーテレビの基礎

- (1) 色の性質
  - ①光と色
  - ②色度図
  - ③色の混合
- (2) カラーテレビの基礎
  - ①NTSC方式
  - ②送・受信のしくみ
  - ③テレビ放送の送信方法

##### 2. カラーテレビの信号

- (1) 輝度信号
- (2) 色差信号
- (3) 同期信号
- (4) 色差信号の多重伝送
- (5) 搬送色信号
- (6) 輝度信号と搬送色信号の重畳
- (7) I軸、Q軸と人間の視覚
- (8) カラーバースト
- (9) 色副搬送波の周波数の選定

#### II. テレビカメラの基礎

##### 1. 主な回路の動作

- (1) 光電変換系
  - ①撮像管
  - ②固体撮像素子
- (2) 映像回路
  - ①プリアンプ
  - ②プロセスアンプ
  - ③輪郭補正回路
  - ④シェーディング補正回路
  - ⑤オート系回路

- ⑥ ABO回路
- (3) エンコーダー回路
- (4) 偏向回路
  - ① 水平偏向
  - ② 垂直偏向
  - ③ プロテクション
  - ④ シオメトリック
  - ⑤ 画枠調整
- (5) パルス回路
- (6) 電源回路

### III. VTRの基礎

1. 磁気記録・再生の原理
  - (1) 磁気記録・再生の基礎
    - ① 基本的電磁現象
    - ② 記録の原理と機構
    - ③ 再生の原理と機構
    - ④ 消磁 (消去)
  - (2) 磁気記録の方法とその特性
    - ① バイアス記録
    - ② FM変調記録方式
2. VTRの記録・再生
  - (1) 音声・映像信号の記録・再生
    - ① 音声の記録・再生
    - ② 映像の記録・再生
    - ③ VTRを構成する技術
3. VTRの各論
  - (1) ビデオヘッド
    - ① ビデオヘッドの構造と材料
    - ② ビデオヘッドの特性
    - ③ ビデオヘッドの互換性と運用
  - (2) 磁気テープ
    - ① 磁気テープの構造と材料
    - ② ビデオテープの特性
    - ③ テープの保管・取り扱い
  - (3) FM信号系
    - ① VTRに用いられるFM信号
    - ② VTRのFMスタンダード
    - ③ FM波の伝送特性
    - ④ FM信号の主な特性

(4) VTRのサーボ系

- ①VTRにおけるサーボ系の役割
- ②サーボ系の構成
- ③サーボと機構の関係
- ④各種のサーボ

(5) 時間軸補正系

- ①TBCの原理
- ②デジタルTBC
- ③デジタルTBCの補正動作
- ④デジタルTBCの各種VTR

4. 各種VTR

(1) 1インチヘリカルVTR

- ①外観と主要部
- ②映像信号系の構成と動作
- ③サーボ系

(2) 3/4インチカセットVTR

- ①カセットVTRの概要
- ②外観と主要部
- ③方式と機能

(3) 1/2インチVTR (βカムVTR)

- ①外観と概要
- ②概要

#### 4. 音声カリキュラム

##### I. 音声に関する基礎知識

- 1) 音と聴覚
  1. 音の単位
    - (1) 音の伝搬速度
    - (2) 音圧レベル
    - (3) 音の強さ
    - (4) 音の大きさ
    - (5) dB (デシベル)
  2. 音と波形
    - (1) 周波数
    - (2) 位相
    - (3) 波形とスペクトル
  3. 音のレベル
    - (1) VU計
    - (2) ピーク計
    - (3) VU計のピークファクター
  4. 聴覚の特性
    - (1) 音の時間差
    - (2) マスキング効果
    - (3) 音の距離感
    - (4) 両耳効果
    - (5) カクテルパーティ効果
- 2) 室内音響
  1. 最遠残響時間
  2. 反響
  3. 室内騒音
- 3) マイクロホン
  1. 音とマイクロホン
  2. マイクロホンの原理
    - 2-1. 磁気変化型マイクロホン
      - (1) リボン型マイクロホン (ペロシティマイク)
      - (2) ダイナミック型マイクロホン (ムービングコイル型)
    - 2-2. 静電型マイクロホン (コンデンサーマイク)
      - (1) 直流バイアス式コンデンサマイクロホン
      - (2) エレクトレット・コンデンサーマイク
  3. マイクロホンの指向性
    - (1) 無指向性マイク
    - (2) 双指向性マイク
    - (3) 単一指向性マイク
    - (4) 超指向性マイク
  4. 番組別マイク選択の具体的例

- 4) モニタースピーカ
  1. モニタースピーカの条件
  2. コントロールルームの音響条件
  3. スピーカの構造
    - (1) コーン型スピーカ
    - (2) ホーン型スピーカ
  - 5) ミキシングコンソール
    1. 使用上の基本事項
    2. インプットモジュールの主な機能
      - (1) インプット
      - (2) フィルターとイコライザ
      - (3) オグジャリーセンド
      - (4) インサーション (INS)
      - (5) チャンネルフェーダ
      - (6) プリフェーダリッスン (PFL) とソロ
      - (7) 出力選択スイッチ
      - (8) パンポット
    - 6) エフェクタ
      1. 周波数コントロール
        - (1) グラフィックイコライザ
        - (2) パラメトリックイコライザ
        - (3) フィルタ
      2. 振幅コントロール
        - (1) コンプレッサ、リミッタ
        - (2) ノイズゲート、エクスパンダ
      3. 時間コントロール
        - (1) デジタルディレイ
        - (2) デジタルリバーブ
      4. その他
        - (1) ピッチチェンジャ
        - (2) オートパン

## II. 收音の実際

- 1) 対談番組
  1. 基本的な考え方
  2. マイクアレンジ
    - (1) アナウンサーマイクロホン
    - (2) ゲストマイクロホン
    - (3) インタビュー
    - (4) マイク以外の素材
    - (5) アナウンススタジオ
- 2) クラシック音楽
  1. 基本的な考え方
  2. 收音方式
    - (1) ワンポイントマイク方式
    - (2) マルチマイク方式
    - (3) ワンポイント方式と補助マイク併用方式



3. スタジオにおける收音例
  - 3-1 ピアノ独奏
  - 3-2 バイオリンとピアノ二重奏
  - 3-3 ピアノ伴奏つき声楽
  - 3-4 弦楽四重奏
  - 3-5 オーケストラ
4. コンサートホールにおけるミクシング
  - (1) メインマイク
  - (2) 響きマイク
  - (3) 補助マイク
- 2) ポピュラー音楽
1. 基本的な考え方
2. マイクアレンジ
  - (1) ドラムセット
  - (2) ベース
  - (3) ギター
  - (4) ピアノ
  - (5) ホーンセクション
  - (6) パーカッション
  - (7) スtringス
  - (8) シンセサイザ
  - (9) コーラス
3. 具体的な例
  - 3-1 ジャズ(Jazz)
  - 3-2 ロック(Rock)
  - 3-3 ムードミュージック(Mood Music)
  - 3-4 マリアッチ
- 3) テレビドラマの收音
  1. 基本的考え方
  2. スタジオ収録
  3. ロケーションにおける收音
  4. 最終の音入れ
- 4) ロケイション
  1. 出発前の準備
  2. 收音の基礎
  3. ロケーションにおける注意点

### Ⅲ. ステレオ收音

1. ペアマイク方式
2. MS方式
3. 分岐方式
4. XY方式
5. ダミーヘッド方式

## 5. 編集及びポスト・プロダクションカリキュラム

### I. 編集の基礎

1. 編集の目的
2. 編集モード
  - (1) アッセンブル
  - (2) インサート
  - (3) スプリット編集
  - (4) 特殊効果モード
3. 編集制御
  - (1) プリロール
  - (2) プリスタート
  - (3) 調相制御
  - (4) カラーフレーミング
  - (5) ゲート制御
  - (6) タイムコード
  - (7) 使用ビットの説明
  - (8) タイムコードのトラブル
4. 編集システム
  - (1) システムの方式
  - (2) トータル編集システム

### II. 画質管理

1. 画質の劣化
2. 映像信号の規格
3. 画質管理上必要な周辺機器の使用法
  - (1) マスターモニター
  - (2) 波形モニター
  - (3) ベクトルスコープ
  - (4) イメージエンハンサ
  - (5) ノイズレデューサ
  - (6) VTRヘッドの交換
4. ビデオ位相とカラー位相
  - (1) システム系統図
  - (2) SYSTEM・SYNC
  - (3) VIDEO・PHASE
  - (4) SYSTEM・SC
  - (5) HUE
  - (6) VTRの調整手順
5. 映像創り
  - (1) コントラスト比
  - (2) 色調
4. 音声創り
  - (1) ダビングによる音質の劣化
  - (2) 効果音
  - (3) 音楽
  - (4) ミクシング

### Ⅲ. ビデオスイチャーの機能

1. 操作パネル
2. MIX
3. ADDITIVE MIX
4. NON ADDITIVE MIX (NAM)
5. WIPE
  - (1) エッジのハードとソフト
  - (2) ボーダー
  - (3) ポジション
  - (4) アスペクト
  - (5) パターンリミット
  - (6) モジューレーション
6. KEY
  - (1) クロマキー
  - (2) レベルキー
  - (3) 外部キー

### Ⅳ. DVE (Digital Video Effect).

1. 縮小効果
  - (1) コーナーパターン
  - (2) 水平・垂直の縮小
  - (3) 画面中心へH・Vの縮小
  - (4) 分割パターン
  - (5) 四角、丸、ひし形パターン
  - (6) 4面マルチ
  - (7) 変形QUAD
  - (8) フリップ効果
  - (9) 縮小効果の注意点
2. 拡大効果
3. ズーム効果
4. 反転効果
5. 回転効果
6. スライド効果
7. ボーダー
8. フリーズ効果
  - (1) オート・フリーズ効果
  - (2) マルチ・フリーズ効果
  - (3) パート・フリーズ効果
9. モザイク効果
10. デフェクト効果
11. 残像効果
12. モンタージュ効果
13. 軌跡効果
14. ミラー効果

## V. 何のために特殊効果を使うのか

### 1. 特殊効果の使用

- (1) 強調
- (2) 情報の圧縮
- (3) トリック
- (4) 目新しさを狙って
- (5) タイトル

### 2. 特殊効果のノウハウ

- (1) 事前打ち合せ
- (2) 映像構成のリズム感とバランス感
- (3) どんなカットを選ぶか
- (4) 作業手順
- (5) 画質管理

## 6. メンテナンス用カリキュラム

### I. VTRのメンテナンス

#### 1. BVH-3000型1インチVTR

- (1) 外観と名称
- (2) 障害判断
- (3) 定期点検および保守
  - ① クリーニング
  - ② トラッキングチェック
  - ③ ヘッド突出し量チェック
  - ④ ヘッドの消磁
- (4) 部品交換
  - ① 上下ドラムの交換
  - ② ヘッドドラム組立の交換

#### 2. BVW-75型1/2インチVTR

- (1) 外観と名称
- (2) 障害判断
- (3) 定期点検および保守
  - ① ビデオヘッドのクリーニング
  - ② 固定ヘッドのクリーニング
  - ③ テープ走行面のクリーニング
- (4) 部品交換
  - ① 上下ドラムの交換
  - ② ドラム組立の交換

#### 3. BVU-950型3/4インチVTR

- (1) 外観と名称
- (2) 定期点検および保守
  - ① クリーニング
  - ② ヘッドの消磁

### (3) 部品交換

- ①上ドラムの交換
- ②ドラム組立の交換

## II. カメラのメンテナンス

### 1. BVP-270型スタジオカメラ

#### (1) 外観と名称

#### (2) CCU系の調整

- ①ビデオ信号系の調整
- ②ケーブル補償系の調整

#### (3) カメラ系の調整

- ①ビデオ信号系の調整
- ②ディテール信号系の調整
- ③オートコントロール系の調整
- ④VFインターフェース系の調整
- ⑤TRIA Xインターフェース系の調整
- ⑥インターカム系の調整

### 2. BVP-3A型VTR (BVV-5) 一体型カメラ

#### (1) 外観と名称

#### (2) 撮像管の交換

- ①RED管の交換方法
- ②BLUE管の交換方法
- ③GREEN管の交換方法

#### (3) カメラ系の調整

- ①レジストレーション系の調整
- ②ビデオ信号系の調整

#### (4) 上ドラムの交換 (BVV-5)

#### (5) VTR系の保守

## 7. 番組制作 (基礎)

PRODUCCION BASICA

### I. EL FUNDAMENTO DE LA CAMARA DE TELEVISION

#### PRINCIPIOS BASICOS

##### 1. LENTES

##### 2. SELECCION DE LENTES

##### 3. DISTANCIA

(A) DISTANCIA DE FOCO DELLENTE

(B) DISTANCIA HASTA EL OBJETO

(C) IRIS

##### 4. IRIS

IRIS AUTOMATICO

##### 5. FILTROS

(A) FILTRO ND

(B) FILTRO DE POLARIZACION

(C) FILTRO CROSS

##### 6. TRANSPORTE

(A) EL TRIPIE

(B) EL PEDESTAL

(C) LA GRUA

##### 7. RIELES

##### 8. ANGULOS

##### 9. TIPO DE TOMAS

##### 10. MOVIMIENTOS DE LA CAMARA

SOBRE SU PROPIO EJE

DE DESPLAZAMIENTO

##### 11. FUNCIONALIDAD EN EL USO DE LA CAMARA DE TELEVISION

(A) LA COMPOSICION

(B) PRINCIPIOS BASICOS DEL ENCUADRE

### II. MAQUILLAJE

#### 1. TRES ATRIBUTOS DE LOS COLORES

#### 2. TECNICA BASICA DEL MAQUILLAJE

(A) EJEMPLO DE MAQUILLAJE PARA HOMBRES

(B) EJEMPLO DEL MAQUILLAJE PARA MUJERES

#### 3. DIFERENCIA ENTRE EL MAQUILLAJE EN LA TELEVISION Y EL TEATRO

### **III. GRAFICAS**

#### **1. TIPOS DE GRAFICAS**

(A) PUNTO MOVIL

(B) TARJETAS

(C) PATRONES

1. PATRONES CON CINTAS REMOVIBLES

2. PATRONES DE ROLLO (ROLLER)

(D) SEMISILUETAS

(E) PAPERERT

#### **2. GRAFICAS COMPUTARIZADAS**

### **IV. ANIMACION**

#### **1. PATRONES DE SOBREPUESTO**

2. ANIMACION EN PELICULA O EN VIDEO

(A) PAPER CUTTING ANIMATION

(B) ANIMACION CON ACETATOS

#### **3. ANIMACION ELECTONICA POR EL D.V.E. (DIGITAL VIDEO EFFECT)**

(A) EFECTO DE REDUCCION

(B) EFECTO DE VUELTA

(C) EFECTO DE LA VUELTA BIDIMENSIONAL

(D) EFECTO DE DESLIZAMIENTO

(E) EFECTO DE DIVISION

(F) EFECTO DE AMPLIACION

(G) EFECTO DE CONGELACION DE IMAGEN (FREEZE)

(H) EFECTO DE AUTOFREEZE

(I) EFECTO DE MULTIFREEZE

(J) EFECTO DE MOSAICO

(K) OTROS

#### **4. UTILIDAD DE LOS EFECTOS DEL D.V.E. (DIGITAL VIDEO EFFECT)**

(A) ENFASIS

(B) CONDENSACION DE LA INFORMACION

(C) ARTIFICIOS



## **V. GUIÓN**

- 1. PLANEAR, ESTRUCTURAR Y ESCRIBIR  
EL GUIÓN PARA UN PROGRAMA EDUCATIVO**
- 2. PSICOLOGÍA DEL APRENDIZAJE  
EN LOS PROGRAMAS EDUCATIVOS**
- 3. COMO ESCRIBIR EL GUIÓN**
- 4. COMO HACER "CONTE ILUSTRATIVO"**

## **VI. PROGRAMAS INFANTILES**

- 1. LOS NIÑOS PEQUEÑOS Y LOS PROGRAMAS  
DE TELEVISIÓN**
- 2. BREVE HISTORIA DE LOS PROGRAMAS  
INFANTILES**
- 3. ELEMENTOS BÁSICOS DEL PROGRAMA INFANTIL**

## **VII. MUÑECOS**

- 1. TIPOS DE MUÑECOS Y SUS CARACTERÍSTICAS**
- 2. DISEÑO Y HECHURA DE TITERES**

8. 番組制作 (応用)

**I. TECNICAS DE LA CAMARA**

1. CONSTRUCCION DE LA IMAGEN
2. FACTORES PRINCIPALES DE LA IMAGEN
3. AUTENTICIDAD DE LA IMAGEN
4. CONSIDERACIONES ACERCA DE LA IMAGEN
5. ESTRUCTURA DE LA PANTALLA Y SU EQUILIBRIO

**II. EDICION Y POST-PRODUCCION**

1. BOSQUEJO HISTORICO DE LA TELEVISION
2. MECANISMO DE LA EDICION
3. PRACTICAS DE EDICION
4. ESTRUCTURA DE LA EDICION

5. TECNICAS DE EDICION
6. CONGRUENCIA DE AUDIO Y VIDEO

### III. ILUMINACION

1. FUNDAMENTOS DE LA ILUMINACION
2. METODOS DE ILUMINACION
3. ILUMINACION EN EL ESTUDIO
4. ILUMINACION EN LOCACION
5. EQUIPOS DE ILUMINACION PARA LOCACION
6. SEGURIDAD AL ILUMINAR

### IV. SONIDO

1. EL MUNDO DEL SONIDO, EL OIDO HUMANO  
Y EL MICROFONO
2. PRINCIPALES FACTORES DEL SONIDO;  
VOZ, MUSICA, SONIDO ACUSTICO
3. DIRECCION DEL SONIDO
4. PRODUCCION DE EFECTOS SONOROS
5. EL USO DE LA MUSICA

### V. EFECTOS ESPECIALES DE VIDEO

1. VARIACION DEL EJE DEL TIEMPO
2. COMPOSICION DEL ENCUADRE
3. EQUIPO, RACIONALIDAD Y EFICACIA

### VI. TIPOS DE PROGRAMAS EDUCATIVOS

1. CLASIFICACION DE PROGRAMAS DE TELEVISION
2. PROGRAMAS DE CIENCIAS (las ciencias naturales)
3. PROGRAMAS DE MATEMATICAS
4. PROGRAMAS DE CIENCIAS SOCIALES
5. PROGRAMAS DE IDIOMAS

9. 番組制作 (実習)

CURSO DE PRACTICAS DE PRODUCCION

POLITICA:

1.- PERFIL DE LOS PARTICIPANTES:

- PARTICIPANTES QUE HAYAN RECIBIDO EL CURSO BASICO O PRODUCTORES QUE TENGAN DE 3 A 5 AÑOS DE EXPERIENCIA.
- CARTA DE POSTULACION DE SU JEFE INMEDIATO SUPERIOR
- Nº DE PARTICIPANTES MAXIMO: 12

OBJETIVO DEL CURSO

QUE LOS PARTICIPANTES REALICEN PRACTICAS EN EL ESTUDIO DEL CETE DE: ILUMINACION, DIRECCION DE CAMARAS, SONIDO, EDICION Y POST-PRODUCCION.

DURACION: 3 SEMANAS, 3 HORAS DIARIAS. DE 9 A 12 HORAS.

TEMARIO

LUNES	MARTES	MIERCOLES	JUEVES	VIERNES
<ul style="list-style-type: none"> <li>- INAUGURACION</li> <li>- INTRODUCCION A LAS INSTALACIONES DEL ESTUDIO.</li> <li>- ORGANIZACION DE EQUIPOS.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- EXHIBICION DEL VIDEO "LUZ Y SOMERA"</li> <li>- PRACTICA DEL PLAN DE ILUMINACION.</li> <li>- ILUMINACION DE UN SET.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PRACTICA DE ILUMINACION DE 2 SETS Y ENSAYOS DE EFECTOS EN ESOS 2 SETS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PREPARACION Y PRACTICA DE EFECTOS LUMINICOS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PRODUCCION DE EFECTOS SONOROS</li> <li>- SONORIZAR 3 VIDEOS DE 5 MIN. C/U.</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>- EXHIBICION DEL VIDEO DE TECNICAS CREATIVAS (DIRECCION DE CAMARAS).</li> <li>- ELABORACION DE GUIA DE TOMAS</li> <li>- REVISION DE GUIAS DE TOMAS.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PLATICAS CON STAFF DE ESTUDIO ENSAYO DE GRABACIONES Y GRABACIONES DE PROGRAMAS DE 15 MINUTOS.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PLATICAS CON STAFF DE ESTUDIO ENSAYO DE GRABACIONES Y GRABACIONES DE PROGRAMAS DE 15 MINUTOS.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PLATICAS CON STAFF DE ESTUDIO ENSAYO DE GRABACIONES Y GRABACIONES DE PROGRAMAS DE 15 MINUTOS.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- REVISION DE VIDEOS DE LAS PRACTICAS E INTRODUCCION AL OFF LINE.</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>- SELECCION DE IMAGENES, MUSICA Y REALIZACION DE OFF LINE</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- SELECCION DE IMAGENES, MUSICA Y REALIZACION DE OFF LINE</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- SELECCION DE IMAGENES, MUSICA Y REALIZACION DE OFF LINE</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ON LINE 1 HORA POR EQUIPO</li> <li>1 - 1</li> <li>2 - 2</li> <li>3 - 3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- EXHIBICION DE VIDEOS POST-PRODUCIDOS. (CLAUSURA)</li> </ul>

・訓練コース参加予想人数調査

平成5年2月11日

国際協力事業団

社会開発協力部長 殿

メキシコ教育テレビ研修センター

リーダー 宮崎



研修コース参加予想人数調査について

表記に関し、

メキシコ側より提出のありました調査報告書、及びにその和訳を送付いたします。

ご査収下さい。

以上

## JICAミッションに対する報告

### 1. UTE として研修に参加可能な数

ロヘリオ・ガルシア・ガルシア技術部長が提出した統計資料と人事簿、又マルコ・マガニャ・ブラボ-UTE 制作課長の提出した情報を分析した結果、1992年度においては各研修コースにつき10名の参加者のグループが次のように構成されるよう提言する。

#### 技術研修

80%がUTE の職員：研修の必要条件（研修目的）に相当する職位にある者が4名と研修計画に関連する他部署の職員4名。表A, B, C, D を参照。

20% が他機関の職員：メキシコ連邦区にある大学あるいはテレビ制作機関。

#### 制作研修

70%がUTE の職員：制作部門（アシスタント、プロデューサー、オペレーター）から4名とオペレーション・コントロールや制作支援サービス部門、台本などの関連部門から3名。表G を参照。

30% が他機関の職員：メキシコ連邦区にある大学あるいはテレビ制作機関。

制作基礎研修を受けた者は後に制作応用研修と制作実習を受講して研修の一サイクルを終了することが望ましい。もちろんこれらの研修が必ずしも続けて行われる必要はなく、一年間にプログラムが繰り返されるのを利用してという意味である。

上記の参加に関する計算は11月現在の職員数を基礎に考慮したものである。しかし、職員の半数以上は謝礼ベースの契約の職員あるいはフリーランスの職員であるということを明記しなければならない。つまりこれら職員が在籍し続けるかどうかは1993年1月に行われる契約更新如何であるということであり、従って添付する表の数を再確認しなければならないということである。UTE 職員が変動するので6か月ごとに調整を行わねばならない。

例えば固定謝礼での契約の場合がその例であり、シリーズ・プログラムのプロデューサーの契約はプログラムの数で契約を行いフリーランスの資格である。

この状況は特に制作研修に関して考慮する必要がある、それは上述の職員がUTE 施設の中にいつもいるわけではなく、教育ビデオの多くが外で制作されており、すなわちUTE では決まった時間帯で仕事をしているのではなく、又多くの場合他の機関でも仕事をしているからである。

又、シリーズの制作に関してはUTE での仕事量が増えたことを指摘する必要がある、これは現在テレビ中学校1年生、幼稚園、社会人教育シリーズ、教職員研修用シリーズを作成しているからである。来年度にはテレビ中学校2年生の制作が予定されており、テレビ原住民教育や文部省の教職員リフレッシュシリーズも開始する予定である。上記は研修におけるUTE 職員の参加数の割合を計算し、同様にその研修に参加する候補者の条件を決める際に重要な影響を与えた。

## 2. 他機関の研修に参加可能な数

講師（カウンター・パート）にとって実験的な段階とも考えられる研修の初めの頃は、オペレーションとメンテナンス部門の研修では各研修につき2名、そして制作研修では3名までを招待するのが妥当ではないかと思われる。

メキシコ連邦区内の大学やテレビ制作会社などの他機関の職員を招待することにより、市場がどんな研修を必要としているのか研修に関する情報を入手することができ、この必要性に対応すべく研修のテーマを充実し、調整することが可能となる。だんだんとUTE 職員の参加が目標に近付くにつれて、適切に広報を流しプロモーションを行えば他機関の参加者数を増やすことも可能である。

1992年11月現在実務職員構成

表 A

UTE技術部

部署：技術・メンテナンス課

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
課長	1				1	明記なし		
技術者	16	9	7		6	10		
勤務時間帯責任者	2	1	1			2		
	19							

部署：マスター

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
勤務時間帯責任者	3	1	1	1		明記なし		
スイッチャー	2	1	1			明記なし		
ビデオテープオペレーター	2	1	1			明記なし		
	7							

部署：短波送信

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
技師	2	1	1			明記なし		
	2							

部署：照明

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
技師	2	1	1			明記なし		
	2							

1992年11月現在実務職員構成

表 B

UTE技術部

部署：ポスプロ課

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
課長	1				1			
ビデオテープ	26	9	9	8	6	20		
ポスプロ	4	2	2		1	3		
タイトル制作	5	3	2		4	1		
スーパーバイザー	3	1	1	1	1	2		
テレビ映画技師	1		1					
	40							

1992年11月現在実務職員構成

表 C

UTE技術部

部署：スタジオ

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
課長	1				1			
勤務時間帯責任者	2	1	1			明記なし		
ビデオカメラオペレーター	2	1	1			明記なし		
ビデオテープオペレーター	2	1	1			明記なし		
音声オペレーター	2	1	1			明記なし		
スイッチャー	2	1	1			明記なし		
カメラマン	4	2	2			明記なし		
フロアマネージャー	2	1	1			明記なし		
照明	2	1	1			明記なし		
マイク	2	1	1			明記なし		
アシスタント	2	1	1			明記なし		
	23							



部署：吹替え室

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
音声オペレーター	2	1	1			明記なし		
音声コーディネーター	2		2			明記なし		
マイク	1	1				明記なし		

5

1992年11月現在職員構成

表 D

UTE技術部

部署：中継車・携帯器材課

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
責任者	8				8	明記なし		
カメラマン	8				8	明記なし		
照明	8				8	明記なし		

24

中継車

職種	合計	勤務時間帯				契約のタイプ		
		朝	昼	夜	不定	専従	謝礼	フリーランス
責任者	1				1	明記なし		
ビデオカメラオペレーター	1				1	明記なし		
ビデオテープオペレーター	1				1	明記なし		
フロアマネージャー	1				1	明記なし		
カメラマン	2				2	明記なし		
照明	1				1	明記なし		
マイク	1				1	明記なし		
アシスタント	1				1	明記なし		

U T E 職員内訳

表 E

1992年11月現在

技術部

職 種	総計	研修対象者
カメラマン	14	カメラ操作技術 (テレビカメラ)
照明係	13	照明技術 (ライティング)
技術者	16	機器メンテナンス技術
ビデオテープ オペレーター	31	編集とポストプロ

理論的には第1サイクルの各研修に10名ずつ参加するという目的を達成するのに十分な数のそして必要な条件を備えた職員がいることになっているが、これらの職員は3つの時間帯：朝・昼・夜、に分れて最低限の人数でU T E の仕事を行っている。上記の事情により研修の参加者数をカバーするのがむずかしくなっており、特に朝の時間帯だけに限り朝の時間帯の職員だけを対象としその他の研修者として可能性のある職員を除くならば更に難しくなる。(表A, B, C, Dを参照)

上記の分析により他の関連部門(表F参照)の職員をも対象とできるであろうという提案が生まれる。これにより目標に到達することが可能になるし、昼の時間帯に対しても代わりの研修プログラムを提供する必要がでてくるであろう。そうなればU T E のみならず他機関からもより多くの参加対象者が得られるようになり、研修の提供の仕方が多様化し研修の需要も高まるであろう。

CETEが提供する研修に参加可能なUTEの職員 表 F

研 修	参加者の職種	可能な参加者数	時間帯				職員
			朝	昼	夜	不定	
*カメラ一般	スタジオ・中継車・携帯カメラのカメラマンとスイッチャー	22	4	4		14	22
*照明一般	スタジオ・中継車の照明係、アシスタントメンテナンス	16	3	3		10	16
*音声	音声オペレーター、アシスタント、メンテナンス、コーディネーター	11	4	3		4	11
*編集とポストプロ	ビデオ・編集・ポストプロオペレーター、ポストプロの勤務時間帯責任者	41	16	15	9	1	41
*ビデオとVTR	メンテナンス技術者、マスターコントロールの責任者・スーパーバイザー	*41	15	14	2	10	37
+メンテナンスと調整	メンテナンス技術者、マスターコントロールの責任者・スーパーバイザー	25	12	10	2	1	

課長を数に入れなくて127

- \* 41名の編集とポストプロ研修参加者の内の4名
- + ビデオとVTR研修の41名の内の25名
- 総計130名の制作基本研修、応用研修へ3名のフロアマネージャー
- \* 基礎研修の一般的なものから同じものの専門へ  
例：VTRと編集  
(システムエンジニアリングの特別研修の参加者を養成するためのビデオ)  
ロケーション：(カメラと音声と照明)

注記：特別研修は研修毎に申請される定員でカバーするものとする。

1992年11月現在の実務職員

表 G

制作部

部署：制作課

職 種	総計	専従	フリーランス	朝	昼	不定
プロデューサー	23	5	18	5		18
ディレクター	14		14			14
コーディネーター	15		15			15
アシスタント	31	1	32	1		31
編集者	4		4			4
コンピューターアニメ	7		7			7
効果	2		2			2
総計	96	6	96	6		96

部署：内容課

職 種	総計	謝礼	フリーランス	朝	昼	不定
台本スーパーバイザー	5	5				5
アドバイザー	2		2			2
脚本家	64		64			64
総計	71	5	66			71

テレビ中学校1年生を8シリーズ、「幼稚園」シリーズ、「ASI SOMOS」シリーズ、「EN VIVO NUESTRO TIEMPO」シリーズ、「SERIES CURRICULARES」、「CORRECCIONES」、「SEGUIMIENTO」、「APRECIACION TE LEVISIVA」文部省研修シリーズの制作に携わる職員の概要

3. R/Dに規定される計画の研修参加者数並びに研修期間と現在の計画の相違に関する分析

CAPFCE（学校建設局）による工事が遅れCETE施設の公式引渡しが遅滞し、従ってプロジェクト実施に悪い影響が出、研修6つのうち4つを調整し、再度計画を立直し、又、使用できる施設並びにその時点で使用できる機器を考慮して研修内容を修正する必要があった。研修の様々な活動を実施するのに大変重要なスペースとなるスタジオは、日本人専門家西沢氏の助言によると床とサイクロラマに重大な問題があり修正工事を行わなければならなかった。この事態は今年の終り頃に実施が予定されていた、このスペースを必要とするテレビカメラ研修、制作基礎研修、制作応用研修に影響を与えた。

上記により1992年度最終四半期の状況は次の通りである。

研 修	10月-11月	参加者数	目標との差
A)テレビカメラ	2回、11月9-18日 計画立直し	8	2
B)ビデオとVTRの基礎	1回、11月23日-12月18日 計画立直し	7	3
C)制作基礎	1回、11月16日-12月11日 計画立直し	4	6
D)編集とポストプロ	1回、11月30日-12月18日	5	5
E)制作応用	計画立直し 1993年7月26日-8月13日		
F)特別研修 「テレビ美術」	D, Fにて1回、11月5日- 12月9日 オアハカにて1回、11月23日 -25日	12 13	0 0

#### 規定の目標と実際の参加者の差に関する説明

訓練の基礎である研修に関して、制作の作業を損なわないように参加者を送るよううまく計画をUT Eの技術部門や制作部門が立てられるように、1992年9月から十分前もって研修について適切なプロモーションをする必要があったということ指摘する必要がある。この問題が表面化してからは、目標の参加者数に到達できるように、研修対象となる部署には今年の11月から1993年の研修の暫定予定を送った。

A)スタジオの引渡しが遅れ、又、研修の一部でカメラとスイッチャーを使用する必要があったので予定していた通りにはカメラの研修を全て行うことはできなかった。上記のため研修を一部変更しロケーション研修だけを行った。しかし携帯用器材が一式しかないので参加者を4名に限った。なぜなら参加者がよく理解し、操作技術を習得するには機械に良く触る必要があるからである。

B)ビデオの基礎研修は1か月続き、準備が遅れが出たようであるし、又本研修を支援する技術部門のカウンターパートもいなかった。

C)制作の研修は、10月にはまだスタジオが完成していなかったのでロケーション研修だけに変更しなければならなかった。

D)編集とポストプロ：カウンターパートの一人が指名から外されたことにより研修準備に影響があり、研修の初めに遅れがあった。10月後半に任命されたメキシコ人カウンターパートはこの研修が開始できるように準備に入ったが、ポストプロのスタジオが一つしかないので10名の参加では限度があると指摘し、参加者が充分機械を操作できるようもっと小さいグループにするように要請した。

E)上記と同じ理由で来年度の制作応用研修の計画立直しをすることが決まった。CAPFCEは

今年の11月30日にスタジオを引渡す約束をした。CETE開所式の作業があったのでサイクロ  
ラマを完成させることしかできなかった。12月の最終週と1993年1月の第1週の間に床の  
修正が予定されている。

#### 実施に対する見通し

予定の研修参加者数（10名）とプロジェクト実施第1サイクルの間に実際に参加した人数  
に差があるという研修実施に関する問題は、基本的には本プロジェクトが調印された1989  
年から現在の1992年の間に本機関での仕事の状況が大きく変わったことに起因する。すな  
わちこの期間UTEのテレビ制作作業が非常に大きく増加し、テレビ局の本来のリズムを  
持つに至った。現在では衛星放送専用のチャンネルも一つ持っており、放映時間も6時間  
から12時間に増え、その結果今まで以上に増えた制作作業をカバーするために仕事量は2  
倍に膨れ上がり、昔から作っているテレビ中学校の制作を引続き行うほかに、新たに特に  
幼児を対象とするテレビのシリーズで幼稚園や小学校教育にも入り始めている。

矛盾しているが制作の仕事量が増加したにもかかわらず、1989年から現在に亘って職員の  
定員数は大幅に縮小しており、上記の職員定数概要表に見られるように職員の構成が変わ  
ってきており、従って当時計算した予定参加者のパーセンテージに大きな変更をきたして  
いるのである。

制作部について言えば、現在、プログラムの制作は外部民間会社に委託しており、その社  
員が職員名簿の中に名を連ねていても実際にはずっとUTEにいるというわけではなく、  
UTEの施設の外で制作作業に携わっているのである。そしてUTEの外に他の会社や機  
関に勤めていることもあるのである。UTEには制作に必要な十分な従業員がいるといえ  
るが、しかし制作部門では特に職員の出入りが激しいことを指摘する必要がある。それは

契約の形がフリーランスであり、各シリーズの決められた数のプログラムの制作をベースに契約を更新する形をとっており、従って契約は更新しても、専従職員の場合のように「拘束」することができる職員ではないからである。表Gに見られるように専従職員は6名のみである。この状況は問題をもたらしめている。つまり他の職員も研修に参加できるようにもっと柔軟性のある制作研修の時間帯を探さねばならないのである。訓練は特に専従職員に対しては福利厚生の一貫として伝統的に扱われてきているが、固定謝礼やフリーランスの形で契約する制作部門の職員に対しては彼等が作るプログラムの品質に対する投資、つまり彼等のプロとしての仕事を改善するものと理解し研修を行わねばならないであろう。

そこでCETEとしては、10名という目標の参加者数に達することができるように代わりの時間帯を提供するという戦略を採る他に、対象者に興味を持ってもらうように研修のプロモーションを行うという重大な仕事を行わねばならない。職員の間でプロジェクトのことを良く知ってもらうようにしてモチベーションを高めることは重要である。「仕事よりも研修を優先する」という当局の支援を得て既に進展が見られる上に、UTEでは研修実施のために仕事時間の内の4時間を研修に与えているし、又専従職員の場合には確かにそして全ての便宜を計って研修を行うことができる。別の契約方式を採っている他の職員の場合、UTEに研修の成果である技術移転が残るようにするには研修の対象者をどのようにしなければならぬかをまだ研究する必要がある。

謝礼ベースの職員の場合、UTEで仕事をしている時間帯であればCETEの研修に参加することができる。普通彼等は別の仕事を持っており、もし彼等にとって都合のいい時間帯に研修がなければ参加するためには特別許可を求めねばならないであろう。しかし技術並びに制作部門の職員数を分析すると、もし研修対象部門の10名の職員を研修に送るとUTEの制作に大きな支障を来すという結果なる。従って研修実施の2～3か月前には研修の半年計画表を送って各部署で計画を立てる、又は研修に参加する職員の代わりの者を臨

時に雇うことができるようにしてU T E の制作作業に支障がでないような対策を建てる必要がある。このためには研修期間をはっきりと決定する必要があるだろうし、その情報を該当部署にできるだけ早く知らせ職員が研修に参加できるように計画を立てる必要がある。

文部省の予算制限により、テレビのシリーズの制作のやり方に新しい考えを取り入れる必要が生まれ、U T E では資金を最大に活用するために各部署の職員定員数を縮小し、実務に不可欠な職員のみにした。技術部門（技術とメンテナンス）の職員簿の表にあるように、各課の課長も入れて技術部門の職員数は131名である。従ってもし1989年に決めたように合計16名の技術者のグループに研修を行うならば、U T E のこの部門は人がいなくなってしまい、たった6名だけでオペレーションしなければならないという重大な事態になってしまう。1992年11月23日に始まったビデオとV T R の基礎研修は6名が参加するために努力した。この研修は1か月続き（この研修期間についても再度分析する必要があると思われる）又1993年4月に同じ研修に9名が参加する必要がある、その上これらの技術者は3回別々の機会に予定されている器材の調整とメンテナンスの研修の対象者でもあることを指摘しておく必要がある。上記の理由でこれらの対象者を4人ずつに分けて2回の研修にし、その分を他部署もしくは他機関の職員を研修に入れることが可能ではないかと考えるものである。

職員簿によるとカメラマンの数は合計14名である。このグループに対しては現在までに8名が研修を受け、1993年4月に行われる次の研修で6名が受けることになるであろう。しかし表Fにも見られるようにこの研修のテーマはフロアマネージャーやスイッチャー、ビデオオペレーターなどの他部署の技術者にとっても興味深いものである。すなわちテレビ制作は各分野が一つに集まったチームワークであり、各分野のオペレーションの専門技術者はもちろん必要ではあるが、これらの者が自分の仕事と関係する他部門の制作工程の特徴を知ること大切であるという考え方に研修の戦略をもっていく必要がある。



照明や音声研修の場合表A, B, C, Dに見られるように、対象者はそれぞれ13名と11名で、この分野の対象者数も同様にあまり多くなく、又勤務時間帯がいろいろに分かれていますので適切な時間帯を選べば2回の研修でこれらの技術者を全部カバーすることができるであろう。

編集とポスプロ研修の場合、表Fに見られるように、朝・昼・夜の勤務時間帯の職員を全部合わせれば対象者はもう少し増える。しかしこの部署の技師を10名研修に送ったならば、UTEでは3週間の間編集とポスプロの仕事を一勤務時間帯完全にストップしなければならないであろう。しかしこの問題はUTEの各課長に前もって研修計画を知らせることによって解決できる。つまり前もって予定を知っていれば仕事量の多い期間中は研修に参加できるように代わりの技師を雇うことができるからである。

しかし、例えばビデオテープのオペレーターはメキシコの労働市場ではそうたやすく見付けられる技術者ではなく、実際メキシコではこの分野の技師は余りいないということを忘れてはならない。従ってUTEの編集とポスプロの職員の代わりとして一勤務時間帯1か月間働く10名を契約するというのも本当に難しい仕事となる。それはまず第一に簡単に見付からないであろうし次に誰も1か月の仕事だけに契約しないであろう。上記の理由により、研修には該当研修の必要条件を備える者を4名送り、他の関連部門から残りの4名を送る、そして編集の研修の場合には事前にインタビューを行い研修に参加する条件を備えているかを評価した者を送る、という技術部門からの提案を本気になって検討してみる必要があると思われる。この戦略はUTEの技術者の新しい構図を作るためにも提案するものである。すなわちこの技術分野ではみんな仕事をしながらやり方を覚えていくのが普通で、チャンスがある時に機械の操作に馴染んでいくのである。今回、研修では体系的に整理されている知識と技術を使って操作を学ぶ機会が与えられ、既に技術者として知られている者の研修のみならずUTEにとって新しい技術者の構図を形成することになるであろう。

技術部門が提案している一考すべきもう一つの提案は、5時間の研修（ビデオとVTRの基礎、編集とポストプロ）の構成を変更し、毎日2時間の研修にするというものである。こうすれば研修期間を延ばす必要があるが、例えば基礎研修は2か月半になり、これであれば条件を備えた参加者を10名研修に送ることができるようになるし、代替りの技術者を臨時に契約することも必要ないし、UTEの制作作業の実施も保証できる。この研修が昼の勤務時間帯にも並行して実施されるならばもっと多くの者が参加できる可能性が生まれる。この提案はメキシコと日本の両者のカウンターパートが評価し、このようなやり方が教育上研修の構成にどんな影響を与えるか、学習目的に到達することが可能か、研修期間を延ばすことは適切かなどを分析する必要があるものである。

編集とポストプロ研修についても同様のことが言えるであろう。この研修では特定の機械の操作を学習するモジュール方式で構成することができるであろう。現在研修を完全に終了するには3週間必要であると考えられているならば、研修期間を短縮し一台の機械の操作を学ぶだけにし、一年間に10名の参加者が何回かの研修期間を持つようにする。この案についても日本とメキシコのカウンターパートの間で検討する必要がある。

上記のことはもちろん研修計画に重大な変更を意味するであろう、しかしそうであってもやはりこれらの提案を検討することが期待される。

## 結論

1. 研修の第1サイクルの進展については、C E T Eのプロジェクトの初期段階において基本的には施設の引き渡しが遅れ、又U T E側でも研修の開始時期を数か月前から知らなかったため職員を参加させるように計画を立てられなかったという事態になり影響を受けた。上記の状況は1993年には繰り返さないであろう。なぜならば検討用に既に暫定予定表を送り、これで仕事量に対応して各分野が計画を建てることのできるであろう。特に1992年の最終四半期にはC E T Eの開所式の準備やU T Eの制作作業量が増えて思うような出席が得られなかったということを指摘する必要がある。

2. 上記にもかかわらず又4つの基礎研修では参加者が定員に至らなかったにもかかわらず、この経験は講師(カウンター・パート)が自分の授業を研究するのにより機会となった。すなわち日本人専門家の指導の元で自分の研修に考えていた内容を実験することができ、これは次の研修に考慮すべき調整点を理解する上で大変役に立った。つまりどんなテーマを入れねばならないか、どれを削除すべきか、どのテーマをもっと膨らますべきか、あるいは座講と実習の時間の割合に対する検討であるとか、選んだ教材の使い方の効果などを理解するのに役立った。これにより次に続く研修を改善するための評価が可能となったのである。

3. 1993年1月第1週に各機関に発送が予定されているC E T Eの業務の紹介パンフレットの配布によりC E T Eの業務が知れ渡ったならば、大きな反響が生まれるであろう。

(ちょうど開所式行事によって明白になったように。) 色々の機関からその職員を研修に参加させたいという申請が来るであろう。技術部の研修については外部からの参加希望は予定の20%を、又制作研修についても提案の30%を上回るであろうと予想されている。これはどういうことかという、研修の参加条件にあう希望者の参加申請を受ければ、例えばカメラマンと「テレビカメラ」の研修を例にとれば、U T Eの関連部署で働く候補者、例えばビデオオペレーターよりもこの希望者の方を優先するということである。このUTE

の候補者にとっても自分の技術形成の補足となる研修に参加することはよいことであるが、この場合彼は参加の補欠者リストに載り、自分の席をこの道の専門家に譲るのである。

4. 本報告書によりUTEの職員養成はプロジェクトの第1サイクルだけではなく1993年に亘っても考慮する必要があるということが明白であり、様々な時期に行われる研修に対してUTEの職員が対象となることが可能であり、特に新しい職員を契約する時には研修が必要となることを考慮する必要がある。

## INFORMACION PARA LA MISION DE JICA

### 1.- NUMERO DE PARTICIPANTES POSIBLES DE LA UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA PARA CADA CURSO.

Después de analizar los datos estadísticos y plantilla de personal proporcionados por el Ing. Rogelio García García, titular de la Subdirección Técnica, así como la información facilitada por el Lic. Marco Magaña Bravo, Jefe del Departamento de Producción de la U.T.E., la integración de grupos de 10 personas para cada curso del año fiscal 1992 se sugiere esté conformada como sigue:

#### CURSOS DE INGENIERIA.

80% personal de U.T.E.- Con 4 participantes cuya categoría de puesto correspondan a la del perfil - objetivo del curso requerido y 4 participantes de otros departamentos afines o relacionados con el programa de formación del entrenamiento. Ver cuadros A B C y D.

20% personal de otras instituciones.- De universidades o de productoras de televisión en el D.F.

#### CURSOS DE PRODUCCION

70% personal de U.T.E.- Con 4 participantes del área de producción (asistentes, productores y realizadores), 3 personas de áreas afines como control de operaciones, servicios a la producción y guionismo. Ver cuadro G.

30% personal de otras instituciones.- De universidades o de productoras de televisión en el D.F.

Se espera que los asistentes que tomen el curso de Producción Básica, posteriormente cursen Producción Avanzada y Prácticas de Producción, concluyendo el ciclo de entrenamiento, aunque no necesariamente en cursos seguidos, sino aprovechando la repetición de la programación a lo largo del año.

Este cálculo de atención se realiza tomando en cuenta la cantidad de personal existente al mes de noviembre. No obstante lo anterior, debe recordarse que más de la mitad de este personal está contratado por honorarios o es free lance, lo que implica que su existencia está supeditada a la renovación de su contrato en Enero de 1993, por lo que habrá que efectuar una nueva revisión de la plantilla a fin de confirmar los datos que se muestran en los cuadros anexos. La movilidad del personal de U.T.E. es un factor que obliga a realizar ajustes cada seis meses, pues así se presenta el tipo de contratación en el caso de pago de honorarios fijos; y por lo que respecta a los contratos a productores de series, éstos se comprometen por determinada cantidad de programas de televisión entregados y tienen la categoría de free-lance.

Esta situación debe considerarse sobre todo para los cursos de producción, ya que las personas antes mencionadas, no se encuentran todo el tiempo en las instalaciones de la U.T.E., pues mucho del material de video educativo

lo producen por fuera, esto es, no tienen horario fijo en U.T.E. y en la mayoría de los casos también trabajan para otras instituciones.

Es necesario advertir, que la carga de trabajo en U.T.E. en lo referente a producción de series, ha aumentado ya que se está realizando actualmente Telesecundaria 1er. grado, Preescolar, las series extracurriculares y la serie de Capacitación Magisterial. Para el próximo año se tiene contemplado la producción de la Telesecundaria 2º. grado, se inicia tele-educación indígena y la serie de actualización docente de la S.E.P. Esto influyó de forma importante al momento de efectuar el cálculo sobre el porcentaje de participación de U.T.E. en los cursos y en la identificación del tipo de personal candidato a participar en el desarrollo de los mismos.

## 2.- NUMERO DE PARTICIPANTES POSIBLES DE OTRAS INSTITUCIONES PARA CADA CURSO.

Se piensa que en la primera etapa del desarrollo de los cursos, que puede ser considerada como una fase de experimentación de los mismos por parte de los instructores, es conveniente invitar a 2 participantes por curso en el área de ingeniería de operación y mantenimiento; y hasta 3 personas por curso, en producción televisiva.

Involucrando a personal de otras instituciones como son las universidades o compañías productoras de T.V. del D.F. se puede obtener información sobre las necesidades de entrenamiento específico que demanda el mercado, que ayudará a efectuar los ajustes a los cursos, enriqueciéndolos con temática que responda a estas necesidades. Con una estrategia de difusión y promoción oportuna es posible incrementar el número de participantes de otras instituciones en cuanto se vayan logrando las metas de atención del personal U.T.E. progresivamente.

PLANTILLA DE PERSONAL OPERATIVO NOV. ABRIL 1992.

SUBDIRECCION TECNICA U.T.E.

AREA: DEPARTAMENTO DE INGENIERIA Y MANTENIMIENTO.

P U E S T O	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
JEFE DE DEPTO.	1				1	NO	ESPECIFICADO	
INGENIEROS	16	9	7			6	10	
JEFE DE TURNO	2	1	1				2	
	19							

AREA: MASTER

P U E S T O	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
JEFE DE TURNO	3	1	1	1		NO	ESPECIFICADO	
SWITCHER	2	1	1			NO	ESPECIFICADO	
OPERADOR DE VIDEO TAPE	2	1	1			NO	ESPECIFICADO	
	7							

TRANSMISION MICRO ONDAS

P U E S T O	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
TECNICO	2	1	1			NO	ESPECIFICADO	
	2							

AREA: TALLER DE ILUMINACION

P U E S T O	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
TECNICO	2	1	1			NO	ESPECIFICADO	
	2							

PLANTILLA DE PERSONAL OPERATIVO NOVIEMBRE 1992

CUADRO B

SUBDIRECCION TECNICA U.T.E.

AREA: DEPARTAMENTO DE POST-PRODUCCION

PUESTO	TOTAL	TURNOS			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION	
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA/BASE	HONORARIOS
JEFE DE DEPTO.	1				1		
VIDEO TAPE	26	9	9	8	6	20	
POST-PRODUCCION	4	2	2		1	3	
GENERADOR DE CARACTERES	5	3	2		4	1	
SUPERVISOR I	3	1	1	1	1	2	
TECNICO DE TELECINE	1		1			1	



PLANTILLA DE PERSONAL OPERATIVO NOVIEMBRE 1992

SUBDIRECCION TECNICA U.T.E.

AREA: ESTUDIOS

P U E S T O	TOTAL	TURNOS			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION	
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA/BASE	HONORARIOS FREE LANCE
JEFE DE DEPARTAMENTO	1			1	1		
JEFE DE TURNO	2	1	1				NO ESPECIFICADO
OPERADOR DE VIDEO CAMARA	2	1	1				NO ESPECIFICADO
OPERADOR DE VIDEO TAPE	2	1	1				NO ESPECIFICADO
OPERADOR DE AUDIO	2	1	1				NO ESPECIFICADO
SWITCHER	2	1	1				NO ESPECIFICADO
CAMAROGRAFOS	4	2	2				NO ESPECIFICADO
FLOOR MANAGER	2	1	1				NO ESPECIFICADO
ILUMINADOR	2	1	1				NO ESPECIFICADO
MICROFONISTA	2	1	1				NO ESPECIFICADO
ASISTENTE	2	1	1				NO ESPECIFICADO

23

AREA: CABINA VOZ EN OFF

P U E S T O	TOTAL	TURNOS			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION	
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA/BASE	HONORARIOS FREE LANCE
OPERADOR DE AUDIO	2	1	1				NO ESPECIFICADO
COORDINADOR DE AUDIO	2		2				NO ESPECIFICADO
MICROFONISTA	1	1					NO ESPECIFICADO

5

SUBDIRECCION TECNICA U.T.E.

AREA: UNIDADES MOVILES Y EQUIPOS PORTATILES

PUESTO	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
RESPONSABLES	8				8			NO ESPECIFICADO
CAMAROGRAFO	8				8			NO ESPECIFICADO
ILUMINADOR	8				8			NO ESPECIFICADO

24

UNIDAD MOVIL

PUESTO	TOTAL	TURNO			ABIERTO	TIPO DE CONTRATACION		
		MATUTINO	VESPERTINO	NOCTURNO		PLAZA BASE	HONORARIOS	FREE LANCE
RESPONSABLE	1				1			NO ESPECIFICADO
OPERADOR VIDEO CAMARAS	1				1			NO ESPECIFICADO
OPERADOR DE VIDEO TAPE	1				1			NO ESPECIFICADO
FLOOR MANAGER	1				1			NO ESPECIFICADO
CAMAROGRAFOS	2				2			NO ESPECIFICADO
ILUMINADOR	1				1			NO ESPECIFICADO
MICROFONISTA	1				1			NO ESPECIFICADO
ASISTENTE	1				1			NO ESPECIFICADO

## SUBDIRECCION TECNICA

PUESTO	TOTALES	CANDIDATOS AL CURSO
CAMAROGRAFOS	14	TECNICAS DE MANEJO DE CAMARA (T.V. CAMERA)
ILUMINADORES	13	TECNICAS DE ILUMINACION (LIGHTING)
INGENIEROS	16	TECNICAS PARA EL MANTENIMIENTO DE EQUIPOS
OPERADOR DE VIDEO TAPE	31	EDICION Y POST-PRODUCCION (POST-PRODUCCION AND EDITING).

TEORICAMENTE EXISTE PERSONAL CON EL PERFIL REQUERIDO Y EN LA CANTIDAD SUFICIENTE PARA CUBRIR LA META DE 10 PARTICIPANTES POR CURSO EN EL PRIMER CICLO, SIN EMBARGO, SE ENCUENTRA DISTRIBUIDO EN 3 TURNOS: MATUTINO, VESPERTINO Y NOCTURNO PARA LLEVAR A CABO LA OPERACION DE LA UNIDAD DE TELEVISION EDUCATIVA CON EL PERSONAL MINIMO. LO ANTERIOR SE CONSTITUYE EN UNA RESTRICCION PARA CUBRIR EL CUPO DE LOS CURSOS, SOBRE TODO SI SE INSISTE EN OFRECERLOS EN TURNO MATUTINO EXCLUSIVAMENTE, PUES SOLO SE PODRIA ATENDER AL PERSONAL DE ESE TURNO, DESCUIDANDO AL RESTO DE POSIBLES CANDIDATOS, (VER CUADROS A B C y D )

ESTE ANALISIS DA PAUTA A LA SUGERENCIA DE QUE ENTONCES SE PUEDA ATENDER A OTRO TIPO DE PERSONAL DE AREAS AFINES (VER CUADRO F), LO CUAL AYUDARA A CUMPLIR CON LAS METAS ESTABLECIDAS, ADEMAS DE QUE SE HACE NECESARIO OFRECER UNA PROGRAMACION ALTERNATIVA PARA EL TURNO VESPERTINO, Y ESTO PERMITIRA TENER UN MAYOR NUMERO DE CANDIDATOS, NO SOLO DE U.T.E. SINO DE OTRAS INSTITUCIONES, ES DECIR, DIVERSIFICANDO LA OFERTA DE SERVICIOS SE INCREMENTARA LA DEMANDA PARA LOS CURSOS.

POSIBLES CANDIDATOS DE U.T.E. A LOS CURSOS QUE IMPARTE C.E.T.E.

CURSO	PUESTO DEL PARTICIPANTE	NUMERO DE PARTICIPANTES POSIBLES	HORARIO			PERSONAL
			M	V	A	
* CAMARA GENERAL	CAMAROGRAFO DE ESTUDIO Y/O UNIDAD MOVIL Y/O PORTATIL Y SWITCHER	22	4	4	14	22
* ILUMINACION GENERAL	ILUMINADORES DE ESTUDIO Y/O UNIDAD MOVIL Y/O ASISTENTES Y MANTENIMIENTO	16	3	3	10	16
* A U D I O	OPERARIOS DE AUDIO Y/O ASISTENTES Y COORDINADORES MANTENIMIENTO	11	4	3	4	11
* EDICION Y POST-PRODUCCION	OPERARIOS DE VIDEO, EDICION Y POST-PRODUCCION, ENCARGADOS DE TURNO DE POST-PRODUC.	41	16	15	9	41
* VIDEO Y VTR	ING. DE MANTENIMIENTO ENCARGADOS Y SUPERVISORES OP DE CONTROL MAESTRO	* 41	15	14	2	37
+ MANTENIMIENTO Y ALINEAMIENTO	ING. DE MANTENIMIENTO SUPERVISORES Y ENCARGADOS DE CONTROL MAESTRO	25	12	10	2	22

SIN CONTAR JEFES DE DEPTO. 127

- \* 4 PARTICIPANTES DEL CURSO DE EDICION Y POST-PRODUCCION DE LOS 41
  - + 25 PARTICIPANTES DE LOS 41 DE VIDEO Y VTR
  - 3 FLOOR MANAGERS AL CURSO DE PRODUCCION BASICA Y AVANZADA DE LOS 130 DEL TOTAL
  - \* DE LOS CURSOS BASICOS SE FORMAN ALGUNOS COMUNES A LA MISMA ESPECIALIDAD
- P. EJEMPLO: VTR Y EDICION  
(VIDEO PARA PREPARAR A LOS PARTICIPANTES AL CURSO ESPECIAL DE INGENIERIA DE SISTEMAS)

LOCACION: (CAMARA, AUDIO E ILUMINACION)

NOTA: LOS ESPECIALES SE CUBRIRIAN CON EL CUPO SOLICITADO POR CURSO.